2001年度

講義計画

桃山学院大学

構　義　計　画

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コンピュータ利用Ⅰ	２５ ２７ ２９ ３１	後　期 後　期 後　期 後　期	２単位 ２単位 ２単位 ２単位	水　口　　薫

［講義概要・学習目標］

近年、情報化社会の特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会の発達には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでも普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。

本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作だけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。

［講義計画］

1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）の概要
2. コンピュータの基本操作とキーボード練習
3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト）
4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト）
5. ネットワークと情報検索（インターネット）
6. ネットワークと情報交換（e-mail、データ転送）
7. コンピュータの可能性について

［成績評価の方法］

講義時の課題、レポート、出席により総合評価。

［教科書］

「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」
桃山学院大学計算機センター（編）　受講者配布

［参考文献］

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コンピュータ利用Ⅰ	３２	前　期	２単位	藤間　真

［講義概要・学習目標］

「読み書きソロバン」とは、古来から言われている必要技能である。ところが、近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化に伴い、コンピュータを操る能力もまた基本的な技能として要求されるようになってきた。

本講義では、初心者を対象に、コンピュータを操る基礎の練習を行う。具体的には、タッチメソッド（キーボードに目を向けずに両手で入力する技能）を中心に、ワープロ、表計算、電子メールの基礎を練習する。

本講義は、初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的としているので、コンピューターの経験を持つものは遠慮されたい。
また、実習主体の講義であり、自習も必要となる。積極的に出席した上で、自由時間を活用して自習を進めないと単位修得は困難である。登録時には、このことに留意した上で登録を行うこと。

［講義計画］
下記の項目について説明した上で、実習を行う。
・パソコンについて
・タッチメソッドの修得
・電子メール
・ワープロソフト
・表計算ソフト
・WWWブラウザーソフト

［成績評価の方法］
出席状況及び実習の成果物の提出により評価する。

［教科書］
桃山学院大学計算機センター編　ユーザーズガイド

［参考文献］

進行状態に応じて指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学総論	01 02	通　期 通　期	4単位 4単位	片　岡　信　之

［講義概要・学習目標］

この講義は、皆さんが将来経営学の各論講義で詳しい話を聞く前に、経営学の全般について予め予備知識を持っていることがふさわしいという狙いから設けられています。

したがって、本講義の目標もその点におかれることとなります。すなわち、経営学全体について、広く浅くサーベイするということです。しかも、出来るだけ、経営学という学問が面白いものだという感じを持って貰えるように、皆さんを動機づけ出来たらよいと思っています。

経営学は範囲が広いので、時間的事情によってはすべてを網羅することにまで至らないかもしれませんが、出来るだけ多くのことをお話ししたいと思っています。経営学の基礎知識をつけるのだという気持ちで臨んで下さい。

ノートを必ず取ってください。この講義の目的の一つは、今後4年間に話を聴いて要点を掴み、ノートに取るという訓練を1年生の初めから習慣づけてもらうことを兼ねています。したがって、学年末にはノートを提出してもらい評価点として加味します。

［講義計画］

テキストに従って、概ねその順に講義を進めます。

1．生活を支える企業
2．環境の変化と企業経営
3．現代の企業社会と経営学を学ぶ意義
4．企業は誰が経営し、動かしているのか
5．企業は何を目指して活動しているのか
6．企業が利用できる経営資源には、どのようなものがあるか
7．企業はどのようにして経営し、組織を作るのか
8．企業の組織はどのように動いているのか
9．企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか
10．企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか
11．企業はどのようにして資金を調達し、運用するのか
12．企業はどのようにして人材を活用するのか
13．企業はどのようにして文化をはぐくむのか

適宜、プリントを補助的に配布します。プリント内容は、前年度のものと異なりますから、注意してください。

［成績評価の方法］

①学年末テスト結果によるほか、②講義ノートチェック（出席してしっかりノートを取っているかどうか）、③講義中の小テストをきちんと書けているかどうか、などによる総合評価とします。

概ね学年末テスト結果7割、その他3割の比重で評価をします。

［教科書］

片岡信之・齋藤毅憲・高橋由明。渡辺峻『はじめて学ぶ人のための経営学』文眞堂、2000年9月刊、2500円

［参考文献］

●特に指定はしませんが、ポーダブルな（携帯できる小さな）経営学辞典をいつも手元に持っていることを奨めます。授業の時に必要に応じてひいてみるほか、常日頃からすき間時間を利用して、どの言葉からでも手当たり次第に読んで下さい。つぎの何れかが、値段も手頃で良いでしょう。

1．吉田和夫・大橋昭一編『基本経営学辞典』同文館、2500円
2．二神恭一編『ビジネス・経営学辞典』中央経済社、3500円

●経営学は様々な知識の総合という特徴があります。『現代用語の基礎知識』（自由国民社）『イミダス』（集英社）『智恵蔵』（朝日新聞社）のうちいずれかを手元に置いて、手当たり次第に読んで雑学をしてみてください。（3つとも各年版が出ています）。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学総論	03	通　期	4単位	谷　口　照　三

［講義概要・学習目標］

経営学は、人間生活と密接に関係している、いわゆる企業を主たる対象に研究してきた。この企業の具体的なイメージとしては、「何々会社」を思い描けばよい。われわれが住むこの世界には、様々な会社があり、それらの会社が人間の生活に必要な様々な物やサービスを提供している。経営学は、人間の生活に必要な様々な物やサービスとは何か、またそのような物やサービスを提供するために必要で充分な条件や物事および考え方とは何かを明らかにすることをめざしている。しかし、その際、いくつかの点を考慮する必要があるが、とりわけ以下の２つの視座ないし態度が重要である。まず第１に、人間生活やそれに応答する企業の活動は、時代によって変化する面と変化しない面があるので、それらを峻別し、その上でそれらの関係を考えていかなければならない。企業の活動は、多くの人々の働きや社会的な制度および自然環境に支えられたり、それらに制約を受ける。そればかりでなく、企業の活動はこのような諸環境に大きな影響を与える。従って、次に考慮しなければならない点は、それらの諸環境と企業の関係を、「プラスの影響とマイナスの影響」の双方からとらえていく態度である。

本講義では、この様な２つの視座ないし態度の下に、経営学の基礎と概略、および経営学を学ぶことの意味が理解できるように、進めていきたい。受講生の皆さんの心の中に、経営学を学び、研究することへの新鮮な興味と輝かしい情熱が生まれることを期待している。

［講義計画］

＜前期＞
1．生活を支える企業，
2．環境の変化と企業経営、
3．現代の企業社会と経営学を学ぶ意義、
4．企業は誰が経営し、動かしているのか、
5．企業は何をめざして活動しているのか、
6．企業が利用できる経営資源には。どのようなものがあるか、

＜後期＞
7．企業はどのようにして経営し、組織をつくるのか、
8．企業の組織はどのように動いているのか
9．企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか
10．企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか
11．組企業はどのようにして資金を調達し、運用するのか
12．企業はどのようにして人材を活用するのか
13．企業はどのようにして文化をはぐくむのか

［成績評価の方法］

不定期小テスト、リポートおよび学年末試験の総合評価。

［教科書］

片岡信之、斉藤毅憲、高橋由明、渡辺　峻共著『はじめて学ぶ人のための経営学』文眞堂、２０００年。

［参考文献］

必要に応じて適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学総論	０４	通　期	４単位	道　明　義　弘

［講義概要・学習目標］
この講義では、経営学の基本的な考え方について理解し、現実に起こっている状況についての解釈を各自ができるようになることを目的としている。そのために、「経営の行動」について、下記の教科書に添って説明するだけではなく、理解を促進するために、多様な資料を提供・利用し、また、できれば、パソコンを用いて、証券取引所に上場している会社について、各種のデータを処理することによって、実際の状況をできるだけ具体的に考えることができるような講義を行っていく予定である。単なる教科書の講読に終わることがないようにしたい。

［講義計画］
教科書の章を追って講義を進めていく。教科書の各章は、以下のような構成になっている。

第１章　経営発展と現代の経営
第２章　経営学と経営発展論
第３章　経営発展論の方法
第４章　経営発展の意義とその基礎過程
第５章　多角化
第６章　M&A（合併・買収）
第７章　集団化
第８章　企業形態の発展
第９章　トップ・マネジメント構造の発展
第１０章　戦略的マーケティング
第１１章　戦略的研究開発
第１２章　戦略的プロダクション
第１３章　戦略的ファイナンス
第１４章　組織変革とヒューマン・リソーシズ
第１５章　環境志向経営への主体的変革

この各章に添って、全体を説明する。そして、それぞれの章の内容について、理解を促進するために、できるだけ新しい情報を提供していくことによって、今の状況に直面する経営における諸問題について考えることができるようにしていきたい。

［成績評価の方法］
講義の理解度をチェックする目的で講義中に実施する数度の小テスト、及び、「経営の行動」に関する最終レポートによって評価する。最終レポートの課題については、講義の終了時に提示する予定。

［教科書］
山本安次郎・加藤勝康編著『経営発展論』文眞堂、１９９７年

［参考文献］
山本安次郎・加藤勝康編著『経営学原論』文眞堂、１９８２年

他の参考文献については、講義の中で指示する。また、講義で利用する資料については、適宜講義の中で配布する予定である。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学総論	０５	通　期	４単位	野　田　俊　範

［講義概要・学習目標］
本講義は、経営学を初めて学ぶ学生を主たる対象とする、いわば「経営学入門」である。と同時に、本学経営学部における企業・経営コースへの導入科目としての性格をも併せもっている。したがって、本講義では経営学の学問的性格を明らかにするとともに、その経営学が研究対象とする企業・経営の基本的原理を概説することとしたい。
本講義は、以下のような学習目標をもっておこなわれる。
①経営学の全体像を体系的に把握すること。
②企業・経営の基本的原理を理解すること。
③現代社会において企業がもつ意義や課題について、各自が主体的に関心をもつこと。

［講義計画］
Ⅰ．経営学とは何か
　１．経営学の意義
　２．経営学の成立
　３．社会科学としての経営学
Ⅱ．企業とは何か
　１．企業の基本的特質
　２．企業の基本的形態
　３．株式会社の特質
　４．企業を支配するもの
Ⅲ．経営管理の基本問題
　１．経営管理の意義
　２．経営管理思想の展開
　３．経営組織の論理
　４．経営戦略の論理
Ⅳ．現代社会と企業経営
　１．現代社会における企業の意義と課題
　２．経営学の展望

［成績評価の方法］
前期末および学年末の試験によって評価する。

［教科書］
使用しない。

［参考文献］
中村瑞穂・丸山恵也・権泰吉編著『新版　現代の企業経営－理論と実態』ミネルヴァ書房。
大橋昭一『経営学理論』中央経済社。
万仲脩一・海道ノブチカ編著『利害関係の経営学』税務経理協会。
その他、必要に応じて適宜指示する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
情報システム概論（旧情報処理概論）	０２ ０３ ０４ ０５ ０６ ０７	通　期 通　期 通　期 通　期 通　期 通　期	４単位 ４単位 ４単位 ４単位 ４単位 ４単位	井　上　義　祐 井　上　義　祐 佐々木　　宏 牧　野　丹奈子 牧　野　丹奈子 中　桐　大　壽

［講義概要・学習目標］

私たちは、コンピュータと通信の利用なしでは過ごせない情報化社会のなかに生きている。この講義では、急速に発展する情報化社会のなかで活躍するために、常識として必要な情報システムの基礎知識を習得する。ハードウェア、ソフトウェア、ソフトウェア開発技法、データベース、通信技術、システムについての基本を学ぶことを目標とする

［講義計画］

［前期］
オリエンテーション
コンピュータの歴史・情報表現
ハードウェアの構成
コンピュータの処理方式・信頼性
［後期］
ソフトウェア
ソフトウェア開発
ファイルとデータベース
通信ネットワーク
コンピュータの光と影
情報化社会と情報システム

［成績評価の方法］

出席を重視する。前期と後期の試験に加え、平常点を総合判断する

［参考文献］

適宜指示する

［教科書］
井上義祐・小池俊隆編『経営情報概論**［改訂版］**』同文舘

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
簿記Ⅰ	０１	通期	４単位	河野　勉

［講義概要・学習目標］

簿記とは帳簿記入のことをさすが、単にそれのみにとどまらず、個人・法人とも１年間の経営活動の結果として決算書（貸借対照表、損益計算書）を作成しなければならない（商法第３２条、商法第２８１条）。
その決算書は、利害関係者（経営者 、従業員、債権者、株主、国等）が活用する有用な情報である。今日、この種のディスクロージャー（情報公開）が社会的に必要とされている。決算書は、複式簿記という極めて技術的手法によって誘導される。この原理を学ぶことによって、企業活動の計数的結果である利益の算定方法並びにバランス思考（人生における）を養うことを学習目標とする。
企業経営にとって、会計の知識は必要不可欠なものであるとされるが、簿記を学習することにより、その会計の考え方をより理解することが容易となる。実務との係わりを交えながら講義していく。
更に、電子商取引時代を迎えて、電子帳簿保存法が施行されている今日のペーパーレス化と帳簿との関連についても言及したい。

［講義計画］
＜前期＞
１．複式簿記の原理・・・(1)簿記の意義と目的
(2)簿記の要素（資産・負債・資本・費用・収益）
(3)簿記の仕組み(取引・勘定・勘定記入法・貸借平均の原理・勘定科目)
２．仕訳帳と元帳・・・ (1)仕訳と仕訳帳　(2)転記と元帳
３．試算表・・・・・・・・・・ (1)試算表の意味と種類　(2)試算表の貸借合計不一致
４．決算（その１）・・ (1)決算の意味と手続　(2)帳簿決算(英米式・大陸式)

＜後期＞
５．取引の記帳・・・・・・・(1)現金・預金取引(2)商品売買取引（仕入帳・売上帳商品有高帳・商品売買益の計算）(3)信用取引(4)手形取引（手形の種類・手形の裏書と割引・不渡手形)(5)有価証券取引(6)固定資産取引(7)個人企業の資本取引
６．決算（その２）・・・(1)決算整理の意味(2) 棚卸表(3)棚卸減耗損と商品評価損(4)貸倒引当損と貸倒引当金(5)有価証券評価損(6)減価償却(7)費用・収益の繰延べと見越し(8)精算表

［成績評価の方法］
簿記は計算技術的側面が強いため、適宜計算問題のホームワークを課し、テストを２回実施し、総合的に評価する。尚、日本商工会議所の簿記検定３級に合格した場合は、成績評価に加算する。

［参考文献］

検定簿記講義３級商業簿記
井上　達雄
新井　清光 編著　　中央経済社

検定簿記ワークブック３級商業簿記
井上　達雄
新井　清光 編著　　中央経済社

［教科書］

中田信正・徐　竜　達・堀　友章・全　在紋（共著）
「現代簿記論」（中央経済社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
簿記Ⅰ	０２	通期	４単位	河野　勉

［講義概要・学習目標］

簿記とは帳簿記入のことをさすが、単にそれのみにとどまらず、個人・法人とも１年間の経営活動の結果として決算書（貸借対照表、損益計算書）を作成しなければならない（商法第３２条、商法第２８１条）。

その決算書は、利害関係者（経営者 、従業員、債権者、株主、国等）が活用する有用な情報である。今日、この種のディスクロージャー（情報公開）が社会的に必要とされている。決算書は、複式簿記という極めて技術的手法によって誘導される。この原理を学ぶことによって、企業活動の計数的結果である利益の算定方法並びにバランス思考（人生における）を養うことを学習目標とする。

企業経営にとって、会計の知識は必要不可欠なものであるとされるが、簿記を学習することにより、その会計の考え方をより理解することが容易となる。実務との係わりを交えながら講義していく。

更に、電子商取引時代を迎えて、電子帳簿保存法が施行された今日のペーパレス化と帳簿との関連についても言及したい。

［講義計画］

＜前期＞

１．複式簿記の原理･･･(1)簿記の意義と目的
(2)簿記の要素（資産・負債・資本・費用・収益）
(3)簿記の仕組み(取引・勘定・勘定記入法・貸借平均の原理・勘定科目)

２．仕訳帳と元帳･･･　(1)仕訳と仕訳帳　(2)転記と元帳

３．試算表･････････　(1)試算表の意味と種類　(2)試算表の貸借合計不一致

４．決算（その１）･･　(1)決算の意味と手続　(2)帳簿決算(英米式・大陸式)

＜後期＞

５．取引の記帳･･････(1)現金・預金取引(2)商品売買取引（仕入帳・売上帳商品有高帳・商品売買益の計算）(3)信用取引(4)手形取引（手形の種類・手形の裏書と割引・不渡手形）(5)有価証券取引(6)固定資産取引(7)個人企業の資本取引

６．決算（その２）･･･(1)決算整理の意味(2) 棚卸表(3)棚卸減耗損と商品評価損(4)貸倒引当損と貸倒引当金(5)有価証券評価損(6)減価償却(7)費用・収益の繰延べと見越し(8)精算表

［成績評価の方法］

簿記は計算技術的側面が強いため、適宜計算問題のホームワークを課し、テストを２回実施し、総合的に評価する。尚、日本商工会議所の簿記検定３級に合格した場合は、成績評価に加算する。

［教科書］

中田信正・徐　竜　達・堀　友章・全　在紋（共著）
「現代簿記論」（中央経済社）

［参考文献］

検定簿記講義３級商業簿記
井上　達雄
新井　清光 編著　　中央経済社

検定簿記ワークブック３級商業簿記
井上　達雄
新井　清光 編著　　中央経済社

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
簿記Ⅰ	０３	通　期	４単位	近　藤　健　司

［講義概要・学習目標］

企業は、複式簿記の原理を使って、日々の取引を記録･計算・整理し、その結果作成される財務諸表を通じて、自らの財政状態と経営成績を把握する。また、債権者・株主・税務当局などに必要な会計情報を伝達する。

本講義では、初めて簿記を学習する学生を対象として初級の商業簿記を講義する。学習内容は、複式簿記の計算原理・計算構造の理解、仕訳の習熟、財務諸表の計算練習、帳簿の合理的な付け方の４点である。

授業に当たっては、簿記の基本的な仕組み理解と計算技術の習得という理論と計算の両面にわたる故に、毎時間、説明とともに、練習問題を多数課して、つとめて実践的に行いたい。積み重ねが必要な科目であるので、極力休まないように努力してほしい。

［講義計画］

＜前期＞Ⅰ 複式簿記の計算原理
（資産・負債・資本と貸借対照表、費用・収益と損益計算書、財産計算と損益計算の統合）

Ⅱ 複式簿記の計算構造
（取引・勘定・仕訳、仕訳帳・元帳、試算表・決算Ⅰ）

Ⅲ 勘定科目各論
（現金・預金、仕入・売上、売掛金・買掛金）

＜後期＞Ⅳ 勘定科目各論
（受取手形・支払手形、その他の勘定科目）

Ⅴ 決算Ⅱ
（決算整理、８桁精算表、財務諸表［損益計算書、貸借対照表］）

Ⅵ 帳簿組織
（伝票会計制度―三伝票制、五伝票制）

［成績評価の方法］

前後期各１回の筆記試験の成績に、課題の提出、出席状況を加味して総合評価する。なお、本年度中に日本商工会議所簿記検定試験３級以上に合格した者には、別途加点評価する。

［教科書］

中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋（共著）「現代簿記論」（中央経済社）

［参考文献］

新井清光・渡部裕亘編著「新検定簿記ワークブック３級」（中央経済社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
簿記Ⅰ	０４	通　期	４単位	清水　信匡

［講義概要］

初めて簿記・会計を学ぶ学生を対象として複式簿記に基づいた商業簿記の記帳手続きを説明することが本講義の主内容である。その過程で簿記・会計が現代の社会でどのような役立ちを担っているのかも説明する。さらに、会計学にはどのような領域があり、どのようなことが問題になっているかも説明する。なお、随時記帳練習を行う。

［学習目標］

①複式簿記の基礎概念の理解
（資産・負債・資本・収益・費用・利益概念の理解）

②複式簿記の基本的記帳方法の理解

③複式簿記の理解を通じて会計学のイメージをつかむ

［講義計画］

前期

1　複式簿記の基礎概念　2　貸借対照表　3　損益計算書
4　仕訳　5　転記　6　試算表　7　６桁精算表
8　決算　9　複式簿記の役立ち

後期

1　現金・預金　2　三分法　3　仕入帳・売上帳・商品有高帳
4　有価証券　5　貸倒償却　6　減価償却　7　手形
8　費用・収益の繰延の見越　9　８桁精算表　10　決算
11　財務諸表の読み方

［成績評価の方法］

前期・後期の試験で評価する。

［教科書］

新井清光監修『新段階式ワークブック　3級商業簿記』税務経理協会

生協にて一括して購入し販売する。

［参考文献］

中田・徐・堀・全著『現代簿記論』中央経済社。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
簿　記　Ⅰ	０５	通　期	４単位	杉本　徳栄

［講義概要・学習目標］

本講義は、現代社会で要求されている複式簿記の基礎知識について理解することを目的としています。

簿記の検定試験をはじめ、税理士や公認会計士試験といった簿記・会計学に関わる各種資格試験において、複式簿記の知識の習得は基本的要件となっていますが、それは簿記・会計学に対する社会的ニーズの証左でもあります。そこで、複式簿記の原理について詳しく解説し、併せて練習問題の反復によってその原理を習得するよう講義を進める予定です。

［講義計画］

1. 簿記の基礎概念
2. 複式簿記の基本構造と取引記帳原理
3. 簿記一巡の手続きとその処理
4. 取引の処理(1)―現金・預金勘定の処理―
5. 取引の処理(2)―債権・債務勘定の処理―
6. 取引の処理(3)―手形取引の処理―
7. 取引の処理(4)―商品売買取引の処理(1)―
8. 取引の処理(5)―商品売買取引の処理(2)―
9. 決算整理の意味と処理方法
10. 株式会社会計の基礎(1)
11. 株式会社会計の基礎(2)
12. 株式会社会計の基礎(3)

［成績評価の方法］

理解度を確認するために講義時間内に行なう小テストと定期試験等を総合して評価します（出席確認を行なった場合は、これをも含めて評価します）。

［教科書］

中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋著『現代簿記論』中央経済社

［参考文献］

安平昭二『簿記要論〔四訂版〕』同文舘
安平昭二『簿記詳論〔三訂版〕』同文舘
安平昭二『簿記―その教育と学習―』中央経済社
武田隆二『簿記Ⅰ』、『簿記Ⅱ』、『簿記Ⅲ』税務経理協会

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
簿記Ⅰ	０６	**通期**	４単位	ソ　ヨン　ダル 徐　龍　達

［講義概要・学習目標］

商業簿記は「企業の鏡」である。企業の経営成績と財政状態が鏡にうつしだされる。その商業簿記が、どのようにして生成し発展してきたのかを歴史的発生史的にとらえ、今日の複式簿記の計算構造を理解するようにしたい。

簿記は、自動車の運転免許の取得と同じように、休まずに、出席することが必要である。欠席しがちな学生は単位の取得が難しい。

［講義計画］

〈前期〉① 簿記計算思考の生成発展
② ヨーロッパにおける複式簿記の成立と発展
③ 複式簿記の計算原理
④ 複式簿記の計算構造

〈後期〉⑤ 勘定科目概説
⑥ 現金・預金
⑦ 売掛金・買掛金
⑧ 受取手形・支払手形
⑨ 商品と評価
⑩ 決算と帳簿組織

［成績評価の方法］

前期テストと年度末テストを総合して評価する。日本商工会議所簿記検定３級以上に合格した者は、合格証書のコピー提出により、評価を１ランク引き上げる。

［教科書］

中田・徐・堀・全共著　『現代簿記論』（中央経済社）

［参考文献］

日本商工会議所の簿記検定商業簿記３級のワークブックの利用をおすすめしたい。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
簿記Ⅰ	０７	通　期	４単位	パク　テ　ヨン 朴　大　栄

［講義概要・学習目標］

今日の経済社会の発展は、簿記の利用なくしては不可能であったと断言しても過言ではない。この意味で、簿記はたんに会計学のみならず、経営学、経済学、その他の基礎としても必要不可欠な学習科目の一つである。　簿記は決して難解な科目ではないが、これをマスターするためには、不断の記帳練習が必要である。したがって、本試験以外に毎回できるだけ数多くの練習問題をレポート提出という方法で行わせる予定である。

本講義は、個人商店の決算諸表の作成までをマスターさせることを目標としている。ただ、大学に学ぶ以上、その背後に流れる思考の理解も目標としたい。

［講義計画］

4月　複式簿記の意義と原理

4-7月　複式簿記の計算構造（取引の意義と種類、勘定と仕訳、仕訳帳と元帳、試算表、精算表、決算と財務諸表）

9-11月　個別会計処理（現金、当座預金、商品売買と売掛金・買掛金、受取手形と支払手形、商品、その他の勘定）

12-1月　決算

［成績評価の方法］

前期・後期の筆記試験の成績にレポートの提出状況と出席状況を加味して評価する。

［教科書］

中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋共著　『現代簿記論』　中央経済社

新井清光・渡部裕亘編著　『新検定簿記ワークブック３級』中央経済社

［参考文献］

必要があれば、適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
簿記Ⅰ	０８	通　期	４単位	山　本　浩　二

［講義概要・学習目標］

企業は、利益を獲得することを目的にして、さまざまな活動を行っている。個人企業の場合には店主が出資し、株式会社の場合には株主が出資し、また銀行などから借り入れたりして経営活動に必要な資金を調達する。調達した資金によって経営活動に必要な物品を購入したり、商業の場合には販売するための商品を購入し、製造業の場合には原材料などを購入して製品を生産し、そして商品や製品の販売が行われる。このような主たる経営活動以外にも企業は多くの活動を行っている。簿記は、企業が営むさまざまな経済活動を貨幣金額で記録する重要なシステムであり、経営学や会計学を学ぶにあたっての必須の基礎知識である。簿記の目的は、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることである。本講義では、商業を営む企業の簿記である商業簿記を前提にして、複式簿記の基本原理、日常の取引の記録から決算にいたる簿記の一連の手続きを説明する。

簿記は、資格としても役立ち、日本商工会議所主催の検定試験は年に３回行われている。検定試験合格に必要な知識を含めて、簿記と会計の基本知識を講義したい。

［講義計画］

前期　①複式簿記の計算原理（損益法と財産法）
②複式簿記の計算構造
③勘定と記帳
④試算表、精算表
⑤決算

後期
①個別勘定科目の処理－現金、当座預金
②個別勘定科目の処理－商品
③個別勘定科目の処理－売掛金、買掛金
④個別勘定科目の処理－手形、その他の勘定
⑤決算手続きと決算整理事項

［成績評価の方法］

前期・後期の各期末試験で評価する。日商検定３級以上の合格者は成績評価にあたって配慮する。

［教科書］

中田信正、徐龍達、堀友章、全在紋共著『現代簿記論』中央経済社

ニューコンセプト日商簿記検定試験商業簿記ワークブック３級、税務経理協会

［参考文献］

ニューコンセプト日商簿記検定試験商業簿記３級、税務経理協会

そのほか、必要に応じて指示する。

＜編入生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部基礎演習	０１	通　期	４単位	鬼　塚　光　政

［演習概要・学習目標］

この基礎演習では経営学の基礎を習得してもらうことを目標としていますが、そのためにも皆さんには、書物を通しての勉強と併せて、社会の中の出来事をリアルに見つめ、考える習慣を身につけて欲しいと思います。

この演習でも、それぞれ興味を持てそうな社会的な問題を取り上げて材料を集め、それを整理、加工して最終的にはレポートのまとめるような作業もやってもらうつもりです。また、それを教室で発表し、みんなで議論をするというのもどうでしょうか。そうしたことを通して自分の意見を他人に正確に伝え、同時に他人の意見を正確に理解する能力を高めていってください。

［演習計画］

＜前期＞
1．経営学部の専門科目の概要と体系および履修要領の説明
2．図書館と計算機センターの利用方法の説明
3．経営学の主たる研究対象である企業が現代社会において占めている位置や影響力や直面している課題について考察しながら、経営学を学習する意味を感得する。

＜後期＞
4．企業の仕組み（「企業形態」）と運営（「経営管理」）に関する問題を理解するための考え方や基礎的な概念を習得して経営学の専門的な学習に備える。

＊１～２回ゲスト講師を招き、経営国際化や環境問題等現代企業が直面している重要な問題について討議することも考えている。

［成績評価の方法］

出席、レポート、授業中の発表・発言、テストの成績等を総合的に勘案する。

［教科書］

追って指示する。

［参考文献］

内橋克人・奥村宏・佐高信編、『企業社会のゆくえ』、岩波書店
内橋克人・奥村宏・佐高信編、『日本型経営と国際社会』、岩波書店
片岡信之編著、『要説　経営学』、文真堂
赤岡功　編、『現代経営学を学ぶ』、世界思想社
橘博／大橋昭一編著、『経営学へのアプローチ』、ミネルヴァ書房

＜０１Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部基礎演習	０２	通　期	４単位	井　上　義　祐

［演習概要・学習目標］

経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつめ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門ゼミナールである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。
①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することにつとめること
②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること
③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること
④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること
　まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。

［演習計画］

この講義では，左記学習目標を達成するために，教科書や文献を私と受講学生全員が一体となって，調べ，人前で発表し，意見をかわし，書きものにまとめるなど，全員が参画することを狙って次ようなことを試みる。
(1) 追って指示する教科書を用い，21世紀の社会人として諸君が活躍するうえで興味深く比較的分かり易い事項について自分で調べ見解を述べて貰う。また，折に触れ，新聞や雑誌の切り抜きなどを用い、数人単位で議論しそれをまとめ発表して貰う。
(2) 設備条件が許す限り、諸君が情報化時代にふさわしい情報リテラシをみにつけ、電子メイルでの私やりとり、レポートの幾つかはワープロでまとめる訓練をし、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄを用いることを試みたい。その使用法は，初めの時期に実習するので，パソコンの未経験者でも，やる気さえあれば全く心配ない。
以上を，なるべく楽しい雰囲気で学べるようにしたいが，そのためには必ず毎回出席することと，全員の予習にもとづく議論への参画・協力が必要だ。課題も多いだろうがそれだけに学ぶことも多い。最初が大切だ。途中で脱落することなく最後まで頑張り通すようにして欲しい。出席している間に楽しくなる。

［成績評価の方法］
講義での議論や発表などの参画度合い，数多く出す課題やレポートなどの総合評価とする。毎回出席することを前提とする。

［参考文献］

新聞や、雑誌などの切り抜きをその都度紹介する。

［教科書］
追って指示する

＜０１Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部基礎演習	０３ ０４	通　期 通　期	４単位 ４単位	岡　崎　守　男

［演習概要・学習目標］
経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつめ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門ゼミナールである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。
①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することにつとめること
②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること
③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること
④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること
　まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。

［演習計画］
　いちおうテキストを使って勉強しますが、こちらからテキストをはみ出して話をすることもあるし、皆さんのほうから大いに質問して脱線させてくれても結構です。その意味で、初めから厳密な計画に沿って演習を行うつもりはありません。
　ただ、いろんな問題に関心を持ってもらうために、例えばチャップリンの「モダンタイムズ」やその他のビデオ類の鑑賞などもできるかぎり行いたいと考えています。

［成績評価の方法］
　常時出席することを前提として、テスト、提出を求めたレポート、レジュメなどの出来具合を総合的に判断して評価します。

［参考文献］
　その都度指示します。

［教科書］
　下川浩一「日本の企業発展史」　講談社現代新書

＜０１Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部基礎演習	０５	通　期	４単位	鬼　塚　光　政

［演習概要・学習目標］

経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつめ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門ゼミナールである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。
①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することにつとめること
②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること
③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること
④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること
まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。

［演習計画］

＜前期＞
1．経営学部の専門科目の概要と体系および履修要領の説明
2．図書館と計算機センターの利用方法の説明
3．経営学の主たる研究対象である企業が現代社会において占めている位置や影響力や直面している課題について考察しながら、経営学を学習する意味を感得する。
＜後期＞
4．企業の仕組み（「企業形態」）と運営（「経営管理」）に関する問題を理解するための考え方や基礎的な概念を習得して経営学の専門的な学習に備える。

＊１～２回ゲスト講師を招き、経営国際化や環境問題等現代企業が直面している重要な問題について討議することも考えている。

［成績評価の方法］

出席、レポート、授業中の発表・発言、テストの成績等を総合的に勘案する。

［教科書］

追って指示する。

［参考文献］

内橋克人・奥村宏・佐高信編、『企業社会のゆくえ』、岩波書店
内橋克人・奥村宏・佐高信編、『日本型経営と国際社会』、岩波書店
片岡信之編著、『要説　経営学』、文真堂
赤岡功　編、『現代経営学を学ぶ』、世界思想社
橋博／大橋昭一編著、『経営学へのアプローチ』、ミネルヴァ書房

＜０１Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部基礎演習	０６ ０７	通　期 通　期	４単位 ４単位	岸　本　裕　一

［演習概要・学習目標］

経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつめ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門ゼミナールである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。
①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することにつとめること
②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること
③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること
④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること
まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。

［演習計画］

＜前　期＞１．大学生にとって必要な基礎的学習テクニック（レポートやレジュメの作成、演習での報告の仕方など）を習得する。
２．簡単な経営学に関する文献を熟読して、その要約をワープロで作成する。
３．図書館での情報検索実習を行う。
４．教科書（２）を熟読して、マーケティングの基礎を学ぶ。

＜後期＞　１．教科書（１）を熟読して、経営学を歴史的視点から精緻に理解するとともに、そこに含まれるキーワードの意味を吟味する。
２．２回生以降の系統的履修を促すために、履修指導を行う。

［成績評価の方法］

出席の状況、普段からの授業への関与度、数回のテストの成績などの集約。

［教科書］

1.　米倉誠一郎著『経営革命の構造』、岩波新書、１９９９年。
2.　岸本裕一・田中達彦著『タイアップソング・マーケティング』同文舘出版、１９９８年。

［参考文献］

進行にしたがって指示する。

＜０１Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部基礎演習	０８	通　期	４単位	小　林　哲　夫

［演習概要・学習目標］

経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつめ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門ゼミナールである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。
①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することにつとめること
②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること
③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること
④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること
　まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。

［演習計画］

主として、経営学のケース研究の中から、優れたものをピックアップして、それについて討論を行います。

［成績評価の方法］

普段の出席状況／リポートと勉学態度

［教科書］
その都度配布します。
参考文献から一部を使うこともあります。

［参考文献］

Norman, R. and R. Ramirez, *Designing Interactive Strategy: From Value Chain to Value Constellation*, Wiley & Sons, 1994

Zell, D., *Changing by Design: Organizational Innovation at Hewlett-Packard*, ILR Press, 1997
その他：　比較的読みやすい論文数編

いずれも訳文があり、授業中に配布します
（購入不要）

＜０１Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部基礎演習	０９	通　期	４単位	清水　信匡

［演習概要・学習目標］

経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつめ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門ゼミナールである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。
①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することにつとめること
②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること
③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること
④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること
　まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。

［演習計画］

前期
1　論文とは何かを『論文の書き方』を読みながら理解する。
2　グループごとに適当なテーマを設定し、それについてまとめる。
3　２においてまとめたことを発表し、討論する。

後期
1　『経営学入門』の第１部と第２部を読むことで経営の基本を理解する。
2　グループごとに興味のある経営問題を調べて発表する。
3　前期で理解した論文の書き方を応用し、経営に関連した論文をまとめる。

［成績評価の方法］
　夏休みと冬休みの課題を主たる評価対象とする。なお、出席状況、授業における発言等も評価に加味する。

［教科書］

澤田昭夫著『論文の書き方』（講談社学術文庫153）講談社1977年
伊丹敬之・加護野忠夫著『ゼミナール経営学入門（改訂版）』
　日本経済新聞社1993年

生協にて一括して購入し販売する。

［参考文献］

澤田昭夫著『論文のレトリック』（講談社学術文庫604）講談社1983年

＜０１Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部基礎演習	１０ １１	通　期 通　期	４単位 ４単位	鈴　木　幾多郎

［演習概要・学習目標］

経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつめ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門ゼミナールである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。
①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することにつとめること
②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること
③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること
④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること
まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。

［演習計画］

<前期>　「情報化・少子高齢化・国際化」の進展がわが国の社会経済ならびに企業経営にどのような影響を与えるのかについて考える。

<後期>　前期の学習を踏まえて、各人の問題意識に基づき、レポートを作成し報告する。

［成績評価の方法］

授業中の発言内容、レポートを含めて総合的に評価する。

［教科書］

その都度指示する。

［参考文献］

＜０１Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部基礎演習	１２	通　期	４単位	野　田　俊　範

［演習概要・学習目標］
経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつめ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門ゼミナールである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。
①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することにつとめること
②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること
③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること
④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること
まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。

［演習計画］
①教科書を用いて現代の社会について考える。
②新聞・雑誌などの資料を用いて現代の企業経営について考える。
以上の課題に関して、学生による報告・質疑・討論を中心にして進めてゆく。

［成績評価の方法］
①出席状況②報告および質疑・討論への参加状況③レポート
以上をもとにして、総合的に評価する。

［教科書］
適宜指示する。

［参考文献］
適宜指示する。

＜０１Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部基礎演習	１３ １４	通　期 通　期	４単位 ４単位	長谷川　彰

[演習概要・学習目標]

経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつめ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門ゼミナールである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。
①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することにつとめること
②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること
③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること
④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること
まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。

[演習計画]

1. 経営学とは何か.
2. 企業形態論.
3. 株式会社とは何か
4. 企業者活動の国際比較
5. 科学的管理とは.

[成績評価の方法]

学年末試験をもとにして評価する

[参考文献]

三戸公他著　『企業論』（有斐閣）

[教科書]

特に指定しない

＜０１Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部基礎演習	１５	通　期	４単位	朴（パク）　大栄（テヨン）

[演習概要・学習目標]

経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつめ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門ゼミナールである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。
①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することにつとめること
②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること
③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること
④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること
まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。

[演習計画]

前期数回の講義では、本学カリキュラムの特徴を説明し、同時に図書館・計算機センター等の勉学・研究補助施設の利用方法を指導する。
その後、テキストを使用して、経営学に関連するテーマの探求、調査、レポート作成など、一連の勉学・研究方法について実践を通じた指導を行う。

[成績評価の方法]

出席状況および発言の頻度と内容を重視する。また、与えられた課題についての発表内容を勘案して評価する。

[参考文献]

新聞記事等のコピー配布も含めて、適宜指示する。

[教科書]

岩波ブックレットNO. 498　森岡孝二著　『粉飾決算』　岩波書店

「経営学部文献講読」クラス一覧

ｸﾗｽ	担　当　者	ﾍﾟｰｼﾞ	ｸﾗｽ	担　当　者	ﾍﾟｰｼﾞ
０１	李　　健泳	308	０７	隅田　　孝	310
０２	李　　健泳	308	０８	隅田　　孝	310
０３	太田　一朗	308	０９	津戸　正広	311
０４	太田　雅晴	309	１０	本多　　毅	311
０５	桜井　久勝	309	１１	本多　　毅	312
０６	鈴木　幾多郎	310	１２	山本　浩二	312

1．ゼミナール形式で授業を行うため、定員を 30 名とします。従って応募者が定員を超えた場合、クラスへ参加できないことがあります。

2．どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、授業への継続的な出席が欠かせないからです。

3．学則上、この科目は経営学部教育科目「学部共通選択科目（4 単位）」に位置づけられています。

4．履修登録にあたっては以下のとおり事前に予備登録（先着順受付）が必要です。

対 象 者 ： 00B 生（経営学部 2 回生）
定　　員 ： 30 名
日　　時 ： 3 月 24 日（土）　9:10 ～ 13:00（昼休憩なし）
場　　所 ： 学務課窓口
申込方法 ： 先着順に受付決定します。学務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出して下さい。

＜注意＞ 申込みにあたっては、事前に授業時間割表で希望クラスの曜日・時限・時間割コードを確認しておいてください。

＜００Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部文献講読	０１ ０２	通　期 通　期	４単位 ４単位	イ　コン　ヨン 李　健　泳

［講義概要・学習目標］

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

［講義計画］

＜前期＞
論理的な話し方とは何かを議論しその構造を学ぶ。
全員が授業に参加できるように、グループ分けを行ない、グループ間のディベートを通じて、論理的な話し方を習得する。さらに、多様な事実から新しい意味を見つけ出す技法に関して学び、ディベートに活かす。
＜後期＞
企業事例から経営の仕組みを学ぶ。
前期のディベートで学んだ論理的な話し方および質問のやり方を活かし、企業事例で現れる諸経営技法が理解できるように、質問を繰り返しながら答えを見つける方法を取る。

［成績評価の方法］

出席率、ディベートへの参加度、発表の準備などを総合勘案して評価。

［参考文献］

小野田博一著、「論理的に話す方法」、日本実業出版社、1300円

［教科書］

講義開始のときに指示する

＜００Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部文献講読	０３	通　期	４単位	太　田　一　朗

［講義概要・学習目標］

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

［講義計画］

ビジネスの国際展開について学ぶ。

<前期>
国際マーケティングを中心に市場開発、商品開発、価格戦略などについて読む。経営に関する基礎的な語句の勉強もあわせて行う。

<後期>
グローバル企業の国際戦略についてグループで調査し,クラスで発表する。

［成績評価の方法］

クラス出席とクラスでの発表による。補完的にレポートを求める事もある。

［参考文献］

［教科書］

追って通知する

＜００Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部文献講読	０４	通　期	４単位	太　田　雅　晴

［講義概要・学習目標］

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

［講義計画］

各人の分担箇所を指定します。報告当日までにそれを読み、そして報告資料に概要をまとめます。報告当日では、その資料を全員に配布し、発表するとともに、発表後、全員で討論します。
できるのであれば、オーバーヘッドプロジェクターやコンピュータを用いた発表も体験してみたいと思います。

［成績評価の方法］

出席状況、発表態度、レポートの結果を総合して評価します。

［教科書］

講義開始時および必要時に指示します。

［参考文献］

講義開始時および必要時に指示します。

＜００Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部文献講読	０５	通　期	４単位	桜　井　久　勝

［講義概要・学習目標］

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

［講義計画］
前期
①会計の役割
②利益計算の仕組み
③利益計算のルール
④売上高と売上債権
⑤棚卸資産と売上原価
後期
⑥固定資産と減価償却
⑦財務活動の資産と損益
⑧営業上の負債と他人資本
⑨自己資本の充実と利益処分
⑩財務諸表の作成と公開

［成績評価の方法］

不定期に行う小テストと期末試験によって総合評価します。

［教科書］

桜井久勝（著）「会計学入門（新版）」日本経済新聞社、2001年。

［参考文献］
もう少し詳しい内容が知りたい人は次の文献を見て下さい。
桜井久勝・須田一幸（著）「財務会計・入門（新版）」有斐閣2000年。
本格的なテキストを読もうと思う人には、次の本をおすすめします。
桜井久勝（著）「財務会計講義（第３版）」中央経済社、2000年。

＜００Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部文献講読	０６	通　期	４単位	鈴　木　幾多郎

［講義概要・学習目標］

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

［講義計画］

<前期>　現在進行している経済社会ならびに企業経営の変化などの理解を深める。

<後期>　前期の学習を踏まえて、各人の問題意識に基づきレポートの作成し報告する。

［成績評価の方法］

授業中の報告・レポートなどを含めて総合的に評価する。

［教科書］

授業中にその都度指示する。

［参考文献］

＜００Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部文献講読	０７ ０８	通　期 通　期	４単位 ４単位	隅田　孝

［講義概要・学習目標］

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

［講義計画］

以下に概ねの予定を示しておく。この他、必要に応じて指示をする。

1. マーケティングの意義
2. 戦略的マーケティング
3. 企業戦略とマーケティング・ミックス
4. 消費者行動１
5. 消費者行動２
6. 市場調査
7. 製品、ブランド、価格戦略
8. 広告媒体とコミュニケーション
9. 日本の流通とチャネル戦略
10. 新たなマーケティングの展開

実際にワープロソフトを使って文章を書くことも予定している。よって、コンピュータを使った講義を数回行う。

［成績評価の方法］
出席状況、授業態度、期末試験により総合的に評価する。

［教科書］
(社)日本マーケティング協会(編)『マーケティング・ベーシックス』
同文舘、1995年。

［参考文献］
伊丹敬之・加護野忠男(著)『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社、1989年。

＜００Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部文献講読	０９	通　期	４単位	津戸正広

［講義概要・学習目標］

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

［成績評価の方法］

授業への出席を最も重視する。毎回，実習結果をFDに保存して提出してもらう。夏休みには研究レポートの作成を課す。課題の提出，積極的な質問，レポートの充実度などを総合的に判断して評価する。

［教科書］

プリントを配付する。

［講義計画］

経営学の文献を読みこなすためには，読んだ内容を理解して，まとめることが肝要である。つまり，読む能力は，まとめる能力，書く能力と密接に関連している。従って，授業では，伝えたい内容をどのように整理し分類し構成するかということから始める。現代では，この整理・分類・記述という作業はコンピュータを利用してなされることが多いので，授業でも，できるだけコンピュータを活用する。

4月は，なによりもまず，経営学的関心とテーマの発見が重要であることを確認する。機械は，テーマを発見してくれないからである。

5月は，コンピュータを利用する作法を身につけ，「一太郎」などのワープロ・ソフトの基本を学ぶ。情報倫理や電子メールに関する注意もする。

6月および7月は，議論を体系的・構造的に展開するための技法を勉強する。「アウトライン(ランク)」機能および「段落書式」機能を最大限に活用する。夏休みには，各自興味のあるテーマを見つけて，レポートを作成してもらう。

9月および10月は，表計算ソフト「エクセル」の基本を身につける。文献目録や読書ノートとして活用する方法を修得する。あわせて，「パワーポイント」を活用したプレゼンテーションの実習も行う。

11月以降は，インターネットを通じた検索の仕方とHTML言語の特徴を学び，簡単なホームページが作成できるようにする。余裕があれば，「アクセス」を使って，文献目録データベースを設計する。「エクセル」と「アクセス」の違いを把握する。

以上のような実習に取り組むが，つねに経営学的なものの見方を養うことを忘れてはならない。

［参考文献］

授業の中で，指示する。

＜００Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部文献講読	１０	通　期	４単位	本多　毅

［講義概要・学習目標］

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

［成績評価の方法］

出席をまず重視。それにレポート、授業態度（例えば発言の回数）などを含めて総合的に評価する。無断欠席、遅刻は当然厳禁。

［教科書］

奥村昭博著『経営戦略』　日経文庫

［講義計画］

基本的にはテキストの章構成にしたがって進行。その流れの中で関連する話題や最新トピックスについても資料などを交えながら進めていく予定。

［参考文献］

必要に応じて授業中に適宜指示する。

＜００Ｂ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部文献講読	１１	通　期	４単位	本多　毅

［講義概要・学習目標］

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

［講義計画］

基本的にはテキストの章構成にしたがって進行するが、それだけに止まらず現在進行形のビジネストピックにも時間の許す限り触れていきたい。

［成績評価の方法］

出席の比重が相対的に高いが、授業態度が不良な者は大きなマイナス評価とする。あとレポート、小テスト（不定期）などを含めた総合評価。

［参考文献］

授業中に適宜指示する。

［教科書］

加護野忠男・伊丹敬之著『ゼミナール経営学入門』　日本経済新聞社

〈ＯＯＢ生対象〉

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学部文献講読	１２	通　期	４単位	山　本　浩　二

［講義概要・学習目標］

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

［講義計画］

前期は、京セラで採用されているやる気を引き出す小集団部門別採算制度である「アメーバ経営」をとりあげて、実際の企業で行われている組織活性化の仕組みについて、文献を輪読して勉強します。

後期は、日本的な製品開発や経営システムについての文献や、いま我が国でベンチャー企業による新産業創出と経済の活性化が期待されている状況に関して、ベンチャービジネスに関連する文献を輪読して、産業創出について勉強します。

［成績評価の方法］

日常の出席状態と担当箇所の報告内容およびレポートによって評価します。

［参考文献］

必要に応じて指示します。

［教科書］

〈前期〉
三矢裕・谷武幸・加護野忠男『アメーバ経営が会社を変える』ダイヤモンド社
〈後期〉
適宜、指示または資料を配布します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論	０１	通　期	４単位	牧　野　源　泉

［講義概要・学習目標］

ミクロ経済学を中心に講義をします。したがって、この講義の目的は、市場メカニズムの機能とそのパフォーマンスを冷静に理解することにあります。
まず、個人の消費計画や企業の生産計画はどのように立てられるのか、また、価格は消費計画と生産計画の不整合をどのように調整するか、といった市場メカニズムの基本的な問題を説明します。続いて、市場メカニズムの評価に目を向け、広い意味での「市場の失敗」に言及し、公共政策の対象となる問題を考えます。
多くを欲張るつもりはありませんが、近年注目されているゲーム論的接近の仕方、および、不完全情報や不確実性のもとでの意志決定といった問題にも触れます。

［講義計画］

1　ミクロ経済学とマクロ経済学
2　需要と供給
3　消費者行動と需要曲線
4　労働供給の理論
5　費用構造と生産
6　市場均衡と資源配分
7　市場の失敗と公共部門の役割
8　不完全競争の理論
9　ゲームの理論
１０　不完全情報の経済学
１１　不確実性とリスク
１２　異時点間の意志決定と利子率

［成績評価の方法］

講義中に時折行う小テストと学年度末試験とによって評点をつけます。

［教科書］

倉澤資成『入門価格理論』日本評論社

［参考文献］

・梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社
・伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社
・J.スティグリッツ（藪下史郎他訳）『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論	02	通期	4単位	森　誠

［講義概要・学習目標］

近代経済学のマクロ経済学を講義します。
まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介します。この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を表す決定式を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思っています。
近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で簡単に解説しますので、前もって数学を知らなくとも理解はできると思います。そして、慣れるために、また、曖昧さを排除するためにほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも１年後にはずいぶん慣れているはずです。
講義では教科書の森担当の章を参考にします。この章はかなり進んだ内容も含んでいますが、講義では初歩から解説します。そして最終的には３節までの内容を理解することを目的とします。

［講義計画］

1、GDPと３面等価の原則
2、実質と名目
3、ISバランス－貿易黒字と貯蓄－
4、GDP決定論の基礎
5、均衡予算定理
6、IS曲線
7、LM曲線
8、財政政策と金融政策の効果
9、リカード命題
10、長期の最適化と財政政策の有効性

［成績評価の方法］

年度末試験

［教科書］

惣宇利紀男、服部容教編『２１世紀の経済政策』日本評論社

［参考文献］

・吉川洋『マクロ経済学』岩波
　ケインズ派の立場によるマクロ経済学
・浜田・安井『マクロ経済学の基礎』有斐閣
　問題形式（命題に対する解説）をとっているのでポイントを押さえる、あるいは、公務員試験対策には向いています。
・瀬岡吉彦『資本主義経済の理論』ミネルヴァ
　新古典派、ケインズ派の問題点の指摘とそれに対する著者の考えが展開されています。通説に疑問を感じたとき見てみるとよいでしょう。ただし難しい本です。
その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営管理論	０１ ０２	通　期 通　期	４単位 ４単位	亀　田　速　穂

［講義概要・学習目標］

この科目が取り扱う内容は、大別して３つの企業経営上の課題領域をめぐって展開されてきている。１つは、人間協働の促進という動機づけの領域に関する研究であり、２つは、さまざまな仕事の規定とそのグループ化およびそれらの相互の関係づけという組織構造論の領域に関する研究であり、３つは、企業の環境適応をはかる経営戦略論の領域に関する研究である。これら３つの主要課題は歴史的にもこの順序で生成発展してきた。

まず動機づけ理論について、科学的管理法、人間関係論、人的資源論の理論命題とそれに基づいて展開される主要な管理手法について説明し、次いで、組織構造論について、古典的組織原則論、職務・責任・権限論、垂直的・水平的職能分化、基本的組織形態、集権・分権・動態組織などについて述べる。さらに、経営戦略論について、環境適応の観点から経営環境論の発展を跡づけ、戦略選択の議論から経営戦略、そして戦略経営への流れを追う。最後に、動機づけ、組織構造、経営戦略をそれぞれ相互に関連づけ、意味のある１つのまとまりとして総合的に理解することの必要性について述べる。

この科目における学習目標は、全体としての企業の行動を総合的に理解することにある。

［講義計画］

（前期）１　経営管理の総合的理解にむけて
　　２　動機づけ理論の発展
　　３　組織構造論の展開

（後期）４　経営戦略論の登場
　　５　経営戦略から戦略経営へ
　　６　企業の戦略適合

［成績評価の方法］

前期はレポート（４００字詰め５枚程度）、後期は試験を課し、両者を総合して成績を評価する。したがって、後期の試験だけでは単位の取得は困難である。なお、出欠状況を評価に加味することがある。

［教科書］

伊藤淳巳・西門正巳・亀田速穂（共著）『現代経営学の生成発展』（白桃書房）

［参考文献］

授業中に適宜指示する

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
商学総論	０１ ０２	通　期 通　期	４単位 ４単位	中田善啓

［講義概要・学習目標］

企業が行っている取引を商学の観点から説明する．特に取引制度の進化のメカニズムを明らかにし，ダイナミズムに力点をおきたい．取引活動の目的は市場を形成することによって，企業内，企業間，消費者間の取引の開始から終結までの活動をコントロールして，需要と供給のマッチングを達成することである。具体的にはチャネル，製品，価格，販売促進を中心に企業戦略と関連させて説明する。同時に，これらの戦略はダイナミックに変化していくので，その進化のプロセスが重要である．

［講義計画］

１．商学とマーケティング
２．複雑系としてのマーケティング・システム
３．マーケティングと取引
４．マーケティングの進化
５．マーケティング・チャネルとその進化
６．技術選択とその進化
７．流行のメカニズム
８．取引慣行とグローバル化

［成績評価の方法］

期末テストを中心に成績を評価するが，場合によってはレポートの提出こともある，期末テストは客観テストと論述式のテストからなるであろう．

［教科書］

中田善啓著『マーケティングの進化』同文館　1998 年

［参考文献］

中田善啓著『マーケティング戦略と競争』　同文館　1992 年
中田善啓著『マーケティングと組織間関係』　同文館　1986 年
テドロー『マス・マーケティング史』（ミネルヴァ書房）
授業中のトピックについてその都度参考書，資料を紹介したい．

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営情報論		通期	4単位	佐々木　宏

［講義概要・学習目標］

産業の情報化と情報の産業化が急速に進展しているなかで、各企業はコンピュータをベースにした経営情報システムをどのように構築しているのだろうか。本講座では、情報システムと企業経営との関わりについて、さまざまな視点から学習する。 講義はすべてプロジェクター投影により行う。

［講義計画］

【前期】
①経営情報システムの構造
②経営情報システムの歴史
③情報と意思決定
④意思決定支援システム
【後期】
⑤経営戦略
⑥戦略情報システム
⑦情報技術の動向
⑧経営情報システムの構築手法
⑨トピックス：サプライ・チェーン・マネジメント、ＩＴ革命など

［成績評価の方法］

前期はレポート。後期は試験。両方とも提出（受験）しないと評価はX。
これに平常点を加味して最終評価する。

［教科書］

佐々木宏『経営情報システム』 同文舘

［参考文献］

寺本義也『ネットワーク・パワー』ＮＴＴ出版
浅田孝幸編著『ＩＴ経営の理論と実際』東京経済情報出版

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
会計学原理	０１	通期	４単位	徐（ソ）龍（ヨン）達（ダル）
	０２	通期	４単位	

［講義概要・学習目標］

簿記会計が、どのような過程をへて発展してきたか、近代的な損益計算の考え方が、どのようにして、形成されてきたか、などについて考証しながら、期間損益計算の特徴をやさしく解説する。会計理論はこれまで、静態論から動態論へ、さらに資金論として展開されてきたが、これらの考え方を学ぶとともに、国際会計の動向など、今後の会計理論の展望を模索してみたい。

この科目は、簿記Ｉの知識が必要である。簿記Ｉを履修済みかまたは、本年度から同時に履修することが強く要請される。

［講義計画］

〈前期〉
① 簿記会計研究の意義
② 財産法的貸借対照表の生成発展
③ 静的貸借対照表論の前半

〈後期〉
④ 静的貸借対照表論の後半
⑤ 動的貸借対照表論
⑥ 動的貸借対照表論の批判

（時間が許せば、資金会計論にも言及する）

［成績評価の方法］

前期末にテストを行い、年度末テストと総合して評価する。

［教科書］

徐龍達（著）『ドイツ会計学』改訂増補版
（ＫＢＳ社、１９９７年刊）

［参考文献］

五十嵐邦正　『静的貸借対照表の研究』　（森山書店）
安藤英義　『新版商法会計制度論』　（白桃書房）

あとは必要に応じて授業中に指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
財務諸表論		通期	4単位	杉本 徳栄

［講義概要・学習目標］

「カネ」あるところには必ず会計が伴うところから、その重要性はおのずと認識されています。会計制度について見た場合、金融ビッグバンに伴い、「会計ビッグバン」の名のもとで日本の会計制度も変革されています。その背景には、破綻した金融機関等に見られたように、ディスクロージャー（情報開示）の不十分さ・不透明性や会計基準の質の低さなどが指摘されてきました。

そこで、はたして日本の企業会計制度並びに会計基準はどのように構築され、体系化されているのか、また国内に限らず、国際的観点からどのように評価され、問題点や改善すべき点を抱えているかについても講義を進める予定です。併せて、会計に関わる時事問題についても解説する予定です。

講義内容を踏まえて、企業の実例（計算問題や情報開示実態）をもとに日本の企業会計制度について理解を深めることを講義目的としています。

［講義計画］

1. アメリカ会計理論・会計制度の発展とその潮流
2. 日本の企業会計制度の生成・発展とその潮流
3. 会計情報のディスクロージャー
   (1) 会計公準と一般原則
   (2) 商法・証券取引法のディスクロージャー
4. 複式簿記の原理
   (1) 簿記一巡の手続き
   (2) 損益計算の構造と計算原則および利益観の変遷
5. 貸借対照表の概要と基本原則
   (1) 貸借対照表の本質
   (2) 資産会計
   (3) 負債会計
   (4) 資本会計
6. 損益計算書の概要と基本原則
   (1) 収益の認識と測定
   (2) 費用の認識と測定
7. 連結財務諸表制度と新会計基準の制度化

［成績評価の方法］

理解度を確認するために講義時間内に行なう小テストと定期試験等を総合して評価します（出席確認を行なった場合は、これをも含めて評価します）。

［教科書］

武田隆二『会計学一般教程＜第４版＞』中央経済社（第４版は2001年春に出版予定）

［参考文献］

中央経済社編『会計法規集　最新増補〔第15版〕』中央経済社
武田隆二『最新財務諸表論〔第7版〕』中央経済社（2001年春に刊行予定）
飯野利夫『財務会計論〔三訂版〕』同文舘
醍醐聡『会計学講義』東京大学出版会
伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門〔第3版〕』日本経済新聞社
古賀智敏『価値創造の会計学』税務経理協会

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経営学史		通期	4単位	野田 俊範

［講義概要・学習目標］

経営学は、ドイツとアメリカにおいて今世紀初頭に成立した若い学問である。そしてその経営学は、ドイツ、アメリカ、および日本においてめざましい発展を遂げてきたのである。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響をうけてきたことは事実である。

本講義では、そのドイツ経営学の生成・展開の歴史を概観し、主要な理論傾向について概説するするとともに、今後の発展の方向について考えることとしたい。その際、学説と歴史的・社会的背景との関連を明らかにすることを重視する。いかなる学説も、それの社会的・経済的・文化的背景による制約から逃れることはできないからである。

ドイツ経営学の歴史を学ぶことを通じて、今日世界の経営学で主流をなしているアメリカ流の経営管理学とは違う、経営学の今ひとつの可能性を知ってほしい。

［講義計画］

Ⅰ．経営学史研究の方法
Ⅱ．ドイツ経営学の歴史
  1. 私経済学の成立
  2. 私経済学から経営経済学へ
  3. 経営経済学の展開
  4. 社会的市場経済と経営経済学
  5. 共同決定と経営経済学
  6. 批判的経営学の系譜
Ⅲ．現代のドイツ経営学
  1. ドイツ経営学の意義
  2. ドイツ経営学の展望

［成績評価の方法］

学年末試験により評価する。

［教科書］

使用しない。

［参考文献］

大橋昭一編著『現代のドイツ経営学』税務経理協会　1991年。
海道ノブチカ／深山明編著『ドイツ経営学の基調』中央経済社　1994年。
その他、必要に応じて適宜指示する。

《インテグレーション科目》

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
組織倫理学（旧経営・商学特講－組織倫理学）		通期	4単位	谷口照三

［講義概要・学習目標］

人間には能力の限界がある。古くからわれわれ人間は、かかる限界を克服するために、他の人々と協力して働くこと、つまり協働を実践してきた。この協働において組織が成立してくるが、われわれが組織を組織として認識する様になったのは、また多種多様な組織を成立させ、それらを通して生活の向上化を計ってきたのは、20世紀になってからである。20世紀は組織の時代である。われわれは、何らかの組織を通してのみ有意味な生活を送ることができるのであり、あらゆる組織との関係を断絶しては生きては生けない。しかし、そこに問題も横たわっている。組織は、有効な協働を実現するために、それ自身を維持せねばならない。そのために、倫理的ないし道徳的価値を含んだ規範的価値を創り出し、当該組織の貢献者（種々の個人や他の組織）にそれらを受容するよう影響力を行使する。他方、貢献者である種々の個人や他の組織もそれぞれ固有の規範的価値を持っている。ここに、当該組織とその貢献者との間に矛盾や対立が起こる可能性が大となる契機がある。かかる問題状況は、何らかの形で処理される必要がある。そこには、四つの方法がある。第一は、貢献者の固有の規範的価値を排除し、当該組織のそれを強要することである。第二は、当該組織の規範的価値を排除し、種々の貢献者の規範的価値を組織が受け入れることである。第三は、当該組織とその貢献者ともお互いに譲歩し、折衷的な規範的価値を創り出すことである。第四は、当該組織とその貢献者の双方の規範的価値に矛盾しない新しいそれを創造することである。第一の方法は抑圧をもたらし、第二の方法は組織の存在理由の否定につながり、いずれも協働の崩壊へと導くものである。有効で、意味のある協働を実現するには、第三と第四の方法が取られなければならない。後者がより理想的であることは言うまでもない。このような規範的価値の調整や創造は、公共性ないし公益性の視座からなされる必要がある。

本講義では、まず、上述した問題状況の認識と現状分析のための理論的枠組みを提示していくことを目指している。また、問題解決のための規範的価値の調整や創造には、公共性ないし公益性は時代と共に変化するが故に、「公共性ないし公益性とは何か」を継続的に考えていくための思考枠組みが不可欠である。受講生の皆さんとの協働を通し、このような新しい枠組みを模索して行きたいと思っている。

［講義計画］

＜前期＞ Ⅰ．現代社会と組織倫理学

Ⅱ．組織の本質と組織の価値的側面

Ⅲ．現代社会を代表する組織としての企業と倫理的問題状況

Ⅳ．倫理学と応用倫理学 ── 組織と企業に関する倫理的問題状況への応答とその限界 ──

Ⅴ．企業倫理学の展開

＜後期＞ Ⅵ．環境倫理学の展開

Ⅶ．組織倫理学の展開の必要性とその基本的視点

Ⅷ．組織と「信頼性の構造」

Ⅸ．組織の責任と組織倫理の創造

Ⅹ．21世紀と組織倫理学の可能性

［成績評価の方法］

前期と後期の課題リポート（講義内容の要点の整理と各自の意見）、および学年末試験の結果を総合的に評価する。

［教科書］

使用しない。

［参考文献］

開講時に参考文献リストを配布する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経営史		通期	4単位	長谷川　彰

［講義概要・学習目標］

「経営史学」という学問領域は比較的新しく形成された領域であるが、近年におけるその発展の速度は、目をみはるものがある。本年度はグラースに始まる経営史学の歴史的展開をはじめとした経営史学の学説的結合を初めておこない、続いて、特に具体的には日本を例にとって、前近代社会から近代社会における商品生産、商品流通を実態を明らかにすることも課題としたい。

［講義計画］

1 経営史学の成立

2 経営史学の展開

3 前近代社会の経営史

4. 近代社会の経営史

［成績評価の方法］

学年末試験を中心に評価したい。

［教科書］

藤田貞一郎他著『日本商業史』（有斐閣）

［参考文献］

米川伸一『経営史学』（東洋経済新報社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
企業論		後期集中	4単位	稲別　正晴

［講義概要・学習目標］

企業は経済活動の単位であり生産や流通活動を通じて資源の配分を行っている。具体的にはそれらは生産数量や価格あるいは投資などの経済的諸決定としてしてあらわれる。

また、今日の典型的企業は法人の形態をとっており、特にその典型である株式会社では株式所有の分散と経営の分離がみられる。この場合経営者と株主、その他の利害関係者との関係が重要な問題となる。

さらに、典型的株式会社は組織体であり、そこでは企業規模、組織形態あるいは組織内の権限と責任のあり方が問題となる。

本講義では市場経済における企業を対象とするのであるが、今日の典型的企業はうえにのべたように多面的にとらえねばならない。したがって、企業の経済決定、株主、経営者、利害関係者の関係、企業組織等について理解することが必要である。

なお、本講義は日本の企業システムとの関連性の中で進める予定である。日本の企業システムは現在急速な環境変化の中でその変革を迫られている。例えば、会社は誰のものか、といういわゆる「コーポレイト・ガバナンス」の問題は、今日日本企業のあり方が問われている中で一つの大きな課題である。したがって、受講生諸君が講義を通じて日本企業のあり方について自ら探求することを期待している。

［講義計画］

講義は大きく二部に分かれる。

「第一部」

1．企業の役割と企業目的
2．需要の理論
3．生産と費用の理論
4．価格、産出量の決定
5．企業の成長と投資

「第二部」

6．「経営者企業」の成立
7．経営者企業の行動仮説
8．取引費用の経済学
9．プリンシパル＝エージェントの理論
10．日本の企業システム
11．日本企業の海外進出

［成績評価の方法］

前期と後期の試験ならびにリポートによる

［教科書］

稲別正晴著『企業の基礎理論』　法律文化社

［参考文献］

教科書に記載

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営財務論		通　期	4単位	今　木　秀　和

［講義概要・学習目標］

企業はさまざまな経営資源を必要としている。人、物、金、情報などの資源がそれである。このうち金という経営資源を対象として講義を行うのが経営財務論である。

金は企業では資本といわれる。必要な資本を利益留保を中心とする内部の源泉および外部の資本市場で調達する。調達した資本は投資に回され、資産の形で運用される。運用の成果は利益としてさまざまに処分される。資本の調達、運用、利益処分がこの講義の主たる問題領域である。

経営財務の基礎知識を習得することが目標である。

［講義計画］

前期　第1章　企業財務の基礎知識
　　第2章　資本の運用
　　第3章　資本の調達

後期　第4章　配当政策と利益処分
　　第5章　ポートフォリオと資本市場
　　第6章　企業財務論の新展開

［成績評価の方法］

成績は前期と学年末のテストに基づいてつけます。前期と後期のレポートおよび出席状況も加点要素とします。

［教科書］

杉井弘和編著『企業財務論　改訂版』（税務経理協会）

［参考文献］

後藤幸男他（編著）『新経営財務論講義』中央経済社
若杉敬明他（著）　『経営財務』有斐閣
村松司叙（著）　『財務管理入門　増補版』同文館

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営労務論		後期集中	4 単位	面　地　豊

[講義概要・学習目標]

「人間労働」が「経営」と関わることによって生ずる諸問題を論ずる科目が「経営労務論」である。

「人間労働」が「経営」との関わり方によって、そこで働く「人間」や、人間が行う「労働」の在り方が規定される。例えば、労働時間、賃金、「昇身、昇格、配置換」といった経営組織上の問題、~~等~~などの問題が生じてくる。

講義は、これらの諸問題について概観する。

[講義計画]

I. 基礎論：経営と関わることのない「労働」の意味を理解し、経営と関わることの一般的意味を理解する。（または「労働」）（テキストを中心とする）

II. 本論：実際の経営労務（あるいは労働）の諸現象で重要な事項について、個別にテーマをとりあげて講義する。例えば、賃金、労働時間（の短縮を含めて）の在り方など。

[成績評価の方法]

試験による。

[参考文献]

講義中、その都度挙げていく。

[教科書]

拙著『経営社会学の生成』千倉書房

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
生産管理論		通　期	4 単位	鬼　塚　光　政

[講義概要・学習目標]

産業革命期の英・仏国に芽生え、１９世紀末から米国で本格的に展開し、１９７０年代以降日本で新たに展開した「近代的生産管理」の生成・発展の過程を経済的、社会的、技術的等の背景を踏まえて段階的に跡づけ、各段階の代表的な生産管理の特徴、並びに意義と限界を講述する。この場合はじめに資本制企業における生産管理の基本的性格、およびその分析の視点とそのための基礎概念を明確にする。

＜学習目標＞

(1) 生産管理の基本的性格と分析視角
(2) 生産管理システムの分析に必要な基礎概念
(3) 各段階の代表的生産管理方式の形成条件、内容的特徴並びに意義と限界
(4) ＩＥ，ＳＱＣ，ＯＲ，ＶＥ，ＳＥ等の経営工学的手法の生産管理への適用
(5) 生産管理の実践と社会・自然との関係

[講義計画]

＜前期＞ 1. オリエンテーション(1回)
2. 生産管理の基本的性格と分析視角(5回)
3. 中間試験(1回)
4. 生産管理前史(3回)
①生産管理の萌芽　②初期大量生産の成立

＜後期＞ 5. 生産管理の成立(4回)
課業管理の成立と展開
6. 生産管理の発展(4回)
本格的大量生産方式の展開
－同時管理・システム管理
7. 多種多量生産型システム管理の展開
－ＪＩＴ，ＦＡ・ＣＩＭ
8. 国際化段階の生産管理
－「日本的生産システム」の海外移転

[成績評価の方法]

出席、前・後２回のテストの成績等を総合して評価する。

[参考文献]

太田雅晴、『生産情報システム』、日科技連
田村孝文、『ＣＩＭ入門』、日本能率協会
門田安弘、『新トヨタシステム』、講談社
藤本隆宏、『生産システムの進化論』、有斐閣
宗像正幸他『現代生産システム論－再構築への新展開』ミネルヴァ書房

[教科書]

追って指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
マーケティング論		通　期	4 単位	鈴　木　幾多郎

[講義概要・学習目標]

市場創造は企業にとって永遠の課題である。マーケティングはそれを担う企業の対市場活動である。

これまで、日本企業は、バアー・マーケティングを基本範形として、マーケティング力を形成してきた。バアー・マーケティングとは、市場シェアの向上を目指し、それを基盤とするバアー（市場支配力）によって、市場創造に対応しようとしたものであった。

しかし、今日、消費者行動の変化、規制緩和、日本市場の国際化、情報化など、市場の基礎的・制度的条件が変貌し始めている。講義では、これらの基礎的・制度的変化が企業のマーケティング活動にどのような変化を求めているのかの考察を踏まえて、今後のマーケティングの方向を取上げることにする。

[講義計画]

<前期>　マーケティングの基本的知識と日本企業のマーケティングの特徴について講義する。

<後期>　新しいマーケティングの方向と具体的なケースについて講義する。

[成績評価の方法]

前期・後期の試験とレポートで評価する。

[教科書]

田村正紀（１９９８）『マーケティングの知識』日本経済新聞社

[参考文献]

授業中にその都度紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
流　通　論　（旧流通経済論）		通　期	4単位	岸　本　裕　一

[講義概要・学習目標]

流通とは、生産と消費という２つの経済活動の間に存在する懸隔（隔たり）を架橋する経済活動である。流通論は、この流通を分析対象として、これを国民経済的視点から論ずるものである。そのうえで、近年特に、大切になってきているのは、地球的規模での流通をみる目である。そこで、この講義の学習目標を要約していえば、流通の機能と機構とを、建学の精神にいう世界の市民としての視点から理解することということになる。

さて、講義内容は、講義計画に示すように多岐にわたるが、その一部を紹介する。２０００年には、わが国の小売業のあり方を規定してきた大規模小売店舗法が廃止されたことから、わが国の小売業はまさに大変革のの時代を迎えている。このような状況を踏まえて、小売業の先進国アメリカの実状と対比しながら、新しい法的枠組みである「街づくり３法」のもとでのわが国小売業の再編の方向を探る。また、販売促進の１つであるテレビＣＭは、現代社会を映す鏡であるともいわれる。そこでは、ポピュラーソングの新曲がタイアップされ抜群な販売促進効果を生んでいると同時に、その新曲そのものの販売促進にもなっているという状況がある。ＣＭのビデオやＣＤ等を駆使しながら、わが国独特のこの状況を明らかにしていく。その他、食品流通の最新事情など、リアルタイムに動くもの他、流通研究の理論などのついても講義する。

[講義計画]

＜前期＞　０．世界経済のトレンドと流通
　　１．流通論の範囲と対象
　　２．流通の分析理論と分析手法
　　３．流通研究の歴史
　　４．流通をめぐる環境変化と流通へのインパクト
　　１）インターネット　２）グローバル化
　　３）規制緩和　　４）流通関連法の改正
　　５．小売流通をめぐる諸問題

＜後期＞　６．卸売流通をめぐる諸問題
　　７．市場調査の方法と実際
　　８．サービス流通（やすらぎ産業）の展開
　　９．広告とポピュラーソング
　　１０．今後の流通の展望
　　――地域経済と世界経済――

[成績評価の方法]

定期試験と平常点との総合評価により行う。

[教科書]

1.岸本裕一・生明俊雄著『J-POPマーティング』中央経済社、２００１年。
2.岸本裕一・青谷実知代著『パーモントカレーとポッキー――食品産業マーケティングの深層』農林統計協会、２０００年。

[参考文献]

進行にしたがって指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
証券論		通　期	4単位	岡　崎　守　男

［講義概要・学習目標］

証券論で取り扱う証券は、株式会社の発行する株式、社債、それに国の発行する公債などを総称した資本証券である。この講義では、現代の経済のなかで重要な役割を果たしているこれらの資本証券の持つ意味、それを支える証券市場の諸制度、証券の流通に伴う価格形成、株式所有とそれを通しての支配の問題などについて、なるべく具体的な事実を紹介しながら勉強する。

［講義計画］

（前期）　証券論の対象としての有価証券
株式会社における株主の諸権利＝株式、
株式の種類、株式会社制度の特徴
債券(種類)、証券業務

（後期）証券市場（発行市場、流通市場）＝証券取引所)、証券会社、信用取引、先物取引、投資信託
証券の価格形成（株式、債券）、擬制資本、証券価格の尺度、価格指標
株式の所有と支配

［成績評価の方法］

期末試験によって行う。

［参考文献］

授業中にその都度紹介する。

［教科書］

日本証券経済研究所編「詳説　現代日本の証券市場」
（２０００年版）　日本証券経済研究所

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
保険論		後期集中	4単位	武　田　久　義

［講義概要・学習目標］

保険は、危険に対処する手段の一つである。危険に対する科学的管理法は、一般にリスクマネジメントと呼ばれている。したがって保険もまた、広範なリスクマネジメントとの関連のなかで理解される必要がある。現在の社会では、保険が様々なリスクマネジメントのうちで中心的な役割を占めているために、リスクマネジメントの学習においても保険の学習にウエイトがおかれる。

ところで、日本の保険制度は、現在大きな転換期にある。事実、これまでの日本では考えられなかったような、保険に関連する様々なできごとが起こっている。それは、ただ保険に限らず日本が歴史的な転換期にあるからであろう。このような変化は、基本的には、情報社会への変化のなかで把握されるものである。

講義では、将来における保険、そしてひろく保障制度のあり方についても、考えてみたい。

［講義計画］

後期集中で行う。主な内容は次の通りである。
＊リスクとリスクマネジメントについて。
＊保険の意義と役割について。
＊保険の組織と保険制度について。
＊保険の契約について。
＊保険と保障。
＊代表的な保険についての説明。生命保険、自動車　保険、介護保険など。
＊保険の歴史と保障制度の将来。
＊リスク・保険と社会・文化について。

なお、レポートを頻繁に提出してもらうので、そのつもりで受講していただきたい。

［成績評価の方法］

期末テストとレポートによる。

［参考文献］

保険に関連する書籍は、基本的に参考になる。強いてあげるならば、次のものである。
＊武田久義・外、『講案保険総論』、法律文化社
＊前川寛、『現代保険入門』、中央経済社

［教科書］

プリントを配布する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国際経営論		通　期	4 単位	太　田　一　朗

[講義概要・学習目標]

世界経済は今、激動の時代を迎えている. 1989 年の東西冷戦終結に続くソ連邦、東欧圏の崩壊により世界経済はメガコンペティション（大競争）の時代に突入し、従来の産業（オールドエコノミー）は深刻な需給ギャップ（需要＜供給）に見舞われている。反面、IT 産業等に代表される、所謂ニューエコノミーの台頭は新しい需要を創造している今や企業は業種、規模を問わず常に世界を視野に入れ戦略を立てなければならない。このような時、主として日本企業の国際経営をめぐる諸問題について考えてみたい。

[講義計画]

<前期＞日本企業の多国籍化、国際化の環境、外国市場への参入方式
国際的製品・価格戦略、国際化の組織

<後期>国際戦略提携、産業財マーケティング、企業行動のルール
日本への製品輸入問題、日本企業としての国際経営の課題

[成績評価の方法]

テストによる。

[教科書]

竹田志郎/島田克美編著　『国際経営論』　（ミネルヴァ書房）

[参考文献]

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国際マーケティング論 （旧貿易論）		通　期	4 単位	太　田　一　朗

[講義概要・学習目標]

1989 年の東西冷戦終結に続くソ連邦、東欧圏の崩壊により世界経済はメガコンペティション（大競争）の時代に突入した。そして従来の産業（オールドエコノミー）は深刻な需給ギャップ（需要＜供給）に見舞われている。今や企業は業種、規模を問わず常に世界を視野に入れ戦略を立てなければならない。このような時、国際マーケティングは益々重要になってきている。

この国際マーケティング論では、まず国際マーケティングの基本問題、ついで国際マーケティングの戦略、さらには国際マーケティングの実態、そして国際マーケティングの展望などについて勉強する。これらの勉強に当っては実例を出来るだけ引用するつもりでいる。尚、マーケティングの知識がなくても受講できるよう、専門用語などはその都度説明する予定でいる。

[講義計画]

<前期＞マーケティングの基礎
4P's 等
国際マーケティングの基本問題
経済発展とマーケティングの進化など
国際マーケティングの戦略
市場細分化、市場進出、複合化戦略など
<後期>国際マーケティングの実態
総合商社、電子産業、自動車産業など
国際マーケティングの展望
国際政治、世界市場

[成績評価の方法]

テストによる。

[教科書]

門松正雄/大石芳裕編著　『国際マーケティング体系』　（ミネルヴァ書房）

[参考文献]

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営・商学特講（インターンシップ）		集中コース	2 単位	鈴　木　幾多郎

［講義概要・学習目標］

インターンシップとは、学生が在学中に企業等において研修的な就業体験するプログラムであり、大学教育と社会における実地の経験を結びつけることによって、教育の効果を一層あげることを目的としている。

尚、当科目については、3月下旬に実施される応募・選考の手続きをしていない場合には、履修登録ができないので注意すること。

［講義計画］

（プログラムの概要）

「事前研修」
(1) プログラムのガイダンス
(2) 研修企業・団体等の事前学習
(3) ビジネスマナーの指導
(4) 研修要領の説明と報告書の作成指導

「研修期間」
夏期休暇中（６０時間以上２週間の予定）

「事後研修」
研修結果の報告

［成績評価の方法］

事前研修・事後研修、研修先からの評価、研修報告書などを含めて総合的に評価する。

［教科書］

［参考文献］

《インテグレーション科目 》

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　チ　ー　フ
経営・商学特講（日本の経営と産業）		後　期	2単位	井　上　　義　祐

［演習概要・学習目標］

グローバリゼーションの大きな潮流のなかで、日本企業にはこれまでにも増して世界レベルでの大きな活躍が期待されている。このような環境のなかで、「キリスト教精神に基づく人格の陶冶」と「世界の市民育成」を建学の精神とする本学において、これから始まる21世紀の世界に向けて大きく羽ばたこうとしている本学学生諸君と、経営学部を主とし他学部の教員も加わえた教授陣による、***英語のみを用いての***日本の経営と産業およびその基盤となる日本の歴史・文化の特徴などについて論じ討議をする。

このことにより、

①日本におけるManagementの一端と主要なIndustryの概要・歴史などおよびそれらの特徴についての基本的事項を学ぶ

②英語での講義や討論を通じて、日本の歴史・文化や、企業、経営などに関する主要な専門用語(technical term)や日常使用する語彙を増やし英語文献の読解力と会話力への興味を増進する。

③英語による講義に馴れノートを取る訓練の場を提供する。

ことを差し当たりの目標とする。

［講義計画］

Professors are scheduled to deliver in English on the subjects related to the following topics, once a week from the latter half of the academic year, such as:

* Orientation, Management Concept and Structure
* Japanese Steel Industry
* Japanese Agriculture
* Banking Industry in Japan
* Features of Japanese Corporate Culture
* Japanese Retailing Industry
* Insurance Business in Japan
* ----
* ----

The topics written above are tentative ones, and the definite topics will be fixed before the series of the lectures begin.

Students, who are willing to challenge to the new experience, are encouraged to join. His/her English competence is not so much important as his/her willingness to study. However once you join this lecture, keep joining to the end of the lecture and don't drop out of it.

［成績評価の方法］

毎回出席することを前提とする。原則として毎回簡単なレポートを課す。それらと最終のテスト、各講義での参画度合いなどで総合的に評価する。

［教科書］

特に指定しない。原則として各講義担当者で事前に簡単な資料を準備配布する予定である。

［参考文献］

講義のなかや前に紹介する。また、必要に応じ資料を配布する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング論A	０１ ０２	後　期 後　期	２単位 ２単位	植　木　泰　博

［講義概要・学習目標］

１．講義概要

ソフトウェア概要：基本ソフトウェアの概要、コンピュータ上でのソフトウェア実行の仕組みなど

コンピュータ上でのソフトウェアの実際：ＢＡＳＩＣ言語を用いたプログラミングを中心に処理の考え方、処理の方法グラフィックなどの解説

２．学習目標

①プログラミングの記述、命令の解説。

②グラフィック作成で絵を書く処理を通して、プログラミングの作成方法を理解する。

③実習で目的（要求）と実現方法、プログラム開発の一連の作業を行う。

注意：プログラム作成、レポート提出などパーソナルコンピュータを利用するので、ワープロ（Ｗｏｒｄ）を利用できることが必要条件である。

［講義計画］

１．ソフトウェアの概略

ソフトウェア実行の仕組み、利用アプリケーションの説明

２．ＢＡＳＩＣ言語

文法、書式解説、例題による命令の理解

グラフィック、グラフィック命令

実習

最終レポート

［成績評価の方法］

コンピュータを利用した実習が中心

１．出席　２．レポート提出（宿題）　３．最終レポート提出

４．授業態度　５．他人のデータを利用しない

［教科書］

プリント配布

［参考文献］

「Ｎ８８－日本語ＢＡＳＩＣリファレンスマニュアル」（日本電気）

N88互換Basicヘルプ

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング論A	０３ ０４	後　期 後　期	２単位 ２単位	大　嶋　耕　一

［講義概要・学習目標］

プログラミング言語にはさまざまなものがあり、適材適所で使用されている。本講義では、その中で最も初心者向きといわれるＢＡＳＩＣ言語を学習する。

ＢＡＳＩＣ言語といえば、Windows 環境では Visual Basic が最も有名である。これは、JIS で規定されている BASIC 言語を Microsoft 社が独自に言語拡張し、Windows 環境に適合させたものであり、アプリケーションの開発環境としては優れているが、初心者にはプログラムの全体像がつかみにくい。

そこで、本講義では、JIS BASIC に最も近い、BASIC インタプリターを用い、言語の習得よりはむしろ、プログラミングの本質を学習することに重点を置くことにする。すなわち、プログラムとは何か、ユーザインターフェースの考え方、コンピュータにおけるデータの扱い等について、発見学習的に学ぶ。

授業の進め方は「自修方式」を基本とする。すなわち、一斉方式の講義は必要最小限にとどめ、各自がテキストを読み進めつつ、実際にコンピュータを使って確かめながら学習し、個別に指導を行う。

なお、実習室のコンピュータで Visual Basic を使える場合は、後半に Windows の Visual アプリケーションについても学ぶことにする。

［講義計画］

第１回　ガイダンス、ＢＡＳＩＣ言語とは

第２回以後　（自修方式）

必須修得内容（進度順）

以下は、全員が学習し、指示された提出物を提出する。

１．ＢＡＳＩＣインタプリタによるプログラム作成の実例

２．最も基本的なコマンド（INPUT、PRINT、代入）と変数

３．プログラムの編集、IF 文、GOTO 文、条件式

４．例題：数値関数、文字関数、文字処理、エラーチェック

５．例題：メニュー構造を持ったプログラム、サブプログラム

追加修得内容

以下は、進度に応じて追加的に学習する。

６．構造化定理、繰り返し構造

７．例題：ファイル入出力

なお、Visual Basic を使用できる場合には、上記７に代えてVisual Basic を用いた、Windows スタイルのプログラミングを学習する。

［成績評価の方法］

出席　３０％、レポート・提出物　７０％ で評価する。

［参考文献］

第１回の授業時に紹介する。

［教科書］

市販の教科書は使用せず、プリントでテキストを配布する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング論A	05	後　期	2単位	岡　本　英　嗣

[講義概要・学習目標]

プログラム言語としてBASICを使用する。最初はコンピュータに慣れてもらうためにワープロ的，電卓的な使い方を行う。その後学生の理解度を考えながら徐々にBASICの言語に入っていく。プリントを配布するので学生はその内容をコンピュータの実習を通じて理解して欲しい。内容的には初級から中級程度を目指したい。

説明は分かり易く丁寧にするつもりであり，多くの学生の履修を希望する。

[講義計画]

1.コンピュータに慣れ親しむためにワープロ的，電卓的な活用
2.単純なプログラムとして変数（数値・文字変数）の使い方
3.やや複雑なプログラムとして条件分岐，繰り返し（多重ループ）など
4.複雑なプログラムとして配列，表計算，検索，並べ替え（ソート）など

[成績評価の方法]

出席状況と課題の提出状況を加味して評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考文献]

大畠永生『文系のBASIC入門』岩波書店１９９２年
池田一夫・馬場史郎『BASICプログラム入門』１９９３年。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング論A	06 07 08	後　期 後　期 後　期	2単位 2単位 2単位	パク　スーヒョン 朴　修　賢

[講義概要・学習目標]

Visual Basic を用いた初歩的なプログラムを作成する。それによってコンピュータの理解を深めると同時に、その適用性について考える。

[講義計画]

ガイダンス
コマンドボタンとプリント文
算術演算
キーボードからのデータの受け取り
判断分岐（その1、その2）
繰り返し処理（その1、その2）
テキストボックスへの出力
テキストボックスからの入力
タイマの利用

[成績評価の方法]

出席、宿題、期末テストによる綜合評価

[教科書]

開講時に指定する。

[参考文献]

特に指定しない。市販の参考書を適切に利用すること。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング論A	09 10	後　期 後　期	2単位 2単位	初　瀬　慎　一

[講義概要・学習目標]

PCの基礎を習得し、その次のステップとして学ぶ科目がプログラミング論Aである。
コンピュータ(PC)は、人間がすべての操作手順を指示することによりはじめて機能するものである。その操作手順を作成することを「プログラミング」と呼ぶ。
プログラミング論Aにおいては、Windowsシステムの標準的なプログラミング言語である「Visual Basic」言語を用いてプログラミングの基礎を習得することを目標とする。

[講義計画]

1. Visual Basicの基礎
2. 簡単なプログラム
3. アルゴリズムの基礎
4. プログラムの作成
5. プログラムの検査

[成績評価の方法]

出席率、課題の提出率、試験の成績、受講態度などを総合して判定する。

[教科書]

開講時に指示する。

[参考文献]

桃山学院大学計算機センター(編)『ユーザーズガイド』

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング論A	11 12 14	後　期 後　期 後　期	2単位 2単位 2単位	榎　本　光　世

[講義概要・学習目標]

Visual Basicを使って、初歩的なプログラミングができるようになること。

[講義計画]

1. 講義概要と受講上の注意点
2. VB事始め
3. コマンドボタンとPRINT文の詳細
4. 算術演算
5. キーボードからのデータの受け取り
6. 判断分岐（その1）
7. 判断分岐（その2）
8. 繰り返し処理（その1）
9. 繰り返し処理（その2）
10. 変数の配列

以上の内容は変更されることもある。

[成績評価の方法]

出席率、宿題の提出率、試験の成績、受講態度などによって総合的に評価する。

[教科書]

未定。

開講時に指定する。

[参考文献]

未定。

開講時に指定する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング論A	13	前　期	2単位	榎　本　光　世

[講義概要・学習目標]

Visual Basicを使って、初歩的なプログラミングができるようになること。

[講義計画]

1．講義概要と受講上の注意点
2．VB事始め
3．コマンドボタンとPRINT文の詳細
4．算術演算
5．キーボードからのデータの受け取り
6．判断分岐（その1）
7．判断分岐（その2）
8．繰り返し処理（その1）
9．繰り返し処理（その2）
10．変数の配列

以上の内容は変更されることもある。

[成績評価の方法]

出席率、宿題の提出率、試験の成績、受講態度などによって総合的に評価する。

[教科書]

未定。

開講時に指定する。

[参考文献]

未定。

開講時に指定する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング論B	01 02	前　期 前　期	2単位 2単位	植　木　泰　博

[講義概要・学習目標]

1．講義概要
コンピュータの概要：コンピュータの仕組み、各部の名称と役割、キーボード操作の解説と練習。
Ｗｉｎｄｏｗｓを利用したマルチメディア文章の作成。
コンピュータの利用：アプリケーションソフトウェアの利用（ワープロ、表計算）と表現方法（情報加工方法）の習得、電子メールと図書館書籍検索システム利用方法解説。インターネットの利用。

2．学習目標
一般的なコンピュータ用語の理解と操作方法の理解。
目的の情報を文書化し、データの表現方法の理解。
コンピュータを自分の表現ツールとして利用できるマルチメディア文章の作成を可能にする。

[講義計画]

1．コンピュータの概要
コンピュータの仕組み
各部の名称と役割
キーボード操作の解説と練習、ＯＳの仕組み
2．ワープロ(Word)操作方法解説
文書入力編集、罫線など
3．表計算(Excel)
データ入力編集、グラフ
4．マルチメディア文書の作成
Ｗｉｎｄｏｗｓ間のワープロを利用した表計算のグラフの貼り付け
インターネット上のデータの利用
5．電子メール、図書検索システムの利用方法解説
6．最終レポート作成

[成績評価の方法]

コンピュータを利用した実習が中心
1．出席　2．レポート提出（宿題）　3．最終レポート提出
4．授業態度　5．他人のデータを利用しない

[教科書]

プリント配布

[参考文献]

ＭＯＵＳ試験対策テキスト

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング論B	０３ ０４	前　期 前　期	２単位 ２単位	大嶋　耕一

［講義概要・学習目標］

かつてマニアのおもちゃでしかなかったパソコンが、今では学習・研究、仕事、趣味といった、いろいろな局面での道具になった。この授業では、コンピュータを学習、研究の道具として使いこなすための基本的なスキルを学ぶことを目的とする。

内容としては、情報の収集（インターネットのWWW、E-mail）、加工・分析（表計算ソフト）、情報の表現・発信（ワープロソフト、E-mail）という、情報処理の基本要素全般を取りあげる。

これらの内容は、いずれもソフトウェアに習熟し、手足のように使いこなせるようになることが大切である。しかしながら半期の授業だけでこれらすべてに習熟することはできない。したがって課外での十分な学習（練習）を前提とする。

［講義計画］

第１回　ガイダンス、Windows の基本的な操作（マウスを中心に）
第２回　フロッピーディスクの扱い、テキストエディタを使ったキーボード操作、ファイルとフォルダの扱い
　注）Windows（DOS/V）フォーマット済みフロッピーディスクを用意しておくこと
第３回　テキストエディタを使った日本語入力・編集、クリップボードを利用した編集処理、その他基本的な機能
第４回　ワープロ入門（１）：文書の書式設定と基本的な文字属性
第５回　Network 入門（１）：ＬＡＮとインターネット、E-mailの使い方
第６回　ワープロ入門（２）：作表、レイアウト、文書作成の演習
第７回　Network 入門（２）：WWWの仕組み、WWWによる情報の検索
第８回　表計算入門（１）：文字・数値・式の入力、セルのコピー
第９回　表計算入門（２）：表の体裁を整える
第10回　グラフの作成、アプリケーションソフト間の連携
第11回　表計算ソフト、ワープロに関する演習
第12回～　総合演習：Visual文書の作成（文書の構造化と画像の活用）

［成績評価の方法］

出席　３０％、レポート・提出物　７０％　で評価する。

［参考文献］

桃山学院大学計算センター『ユーザーズガイド』
その他、授業時に適宜紹介する。

［教科書］

市販の教科書は使用せず、プリントでテキストを配布する。
注：桃山学院大学『ユーザーズガイド』は各自手に入れておくこと

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング論B	０５	前　期	２単位	岡　本　英　嗣

［講義概要・学習目標］

プログラミング論Ｂは今までコンピュータを使ったことがない学生を対象とする。ワープロ的，電卓的な使い方をはじめ，電子メールやインターネットなどを通じてコンピュータで出来る一通りのことを学習する。プリントを配布するので学生はその内容をコンピュータの実習を通じて理解して欲しい。

説明は分かり易く丁寧にするつもりであり，多くの学生の履修を希望する。

［講義計画］

1.コンピュータに慣れ親しむためにワープロ的な活用に慣れる。
2.Word を使って難しい文章（手紙，暑中見舞い，年賀状など）が打てる。
3.Excel を使って簡単な表計算が出来る。
4.電子メールが自由に送れる。
5.インターネットで世界中をサーフィンして，欲しい情報を取り込む。

［成績評価の方法］

出席状況と課題の提出状況を加味して評価する。

［参考文献］

橋本和則『Windows９８で始めるパソコン』中央経済社１９９８年
片山康至・黒岩雅彦・大谷裕子『文系のためのコンピュータ・リテラシー』１９９６年。

［教科書］

プリントを配布する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング論B	06 07 08	前　期 前　期 前　期	2 単位 2 単位 2 単位	パク　スーヒョン 朴　修賢

[講義概要・学習目標]

ＯＳやキーボード操作などとパソコンに関する基礎的な知識を身につける。また、ワープロ（Word）や表計算（Excel）ソフトの使い方を習得し、簡単な報告書の作成を目指す。

[講義計画]

パソコンの基礎知識
Word
　文章の編集
　罫線
　オブジェクトの利用
Excel
　効率のよい表の作成
　数式と関数
　グラフ機能

[成績評価の方法]

出席、宿題、期末レポートによる綜合評価

[教科書]

開講時に指定する。

[参考文献]

特に指定しないが、市販の参考書を適切に利用する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング論B	09 10	前　期 前　期	2 単位 2 単位	初瀬慎一

[講義概要・学習目標]

情報化社会は非常に速いテンポで進化し、我々の生活にもさまざまな形で影響を与えている。近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化に伴って、コンピュータを操る能力は現代社会においては基礎的な技能として要求されている。
授業では、コンピュータを「電子文房具」として活用するのに必要な知識の獲得を目的としパソコン実習を通して、ハードウエア、ソフトウエア、ネットワークやマルチメディアについて、また表計算、ワープロソフト、インターネットの利用等を学習する。

[講義計画]

1. パーソナルコンピュータ(パソコン)の概要
2. コンピュータの基本操作、キーボードレッスン
3. インターネット
4. 電子メールとネチケット
5. オフィスツール(ワープロ・表計算)の利用
6. その他の情報活用法

[成績評価の方法]

出席率、課題の提出率、試験の成績、受講態度などを総合して判定する

[教科書]

開講時に指示する。

[参考文献]

桃山学院大学計算機センター(編)『ユーザーズガイド』

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング論B	11 12	前　期 前　期	2単位 2単位	榎　本　光　世

[講義概要・学習目標]

1．キーボードに慣れ、ウィンドウズやパソコンの基本的な操作を習得する。

2．電子メールやインターネットの利用法を習得する。

3．ワード、エクセルといった一般的なアプリケーションの使用法を習得する。

[講義計画]

1. 講義概要
2. パソコンの仕組み
3. ブラウザー
4. 電子メール
5. WORDの基本(その1)
6. WORDの基本(その2)
7. WORDの基本(その3)
8. EXCELの基本(その1)
9. EXCELの基本(その2)
10. EXCELの基本(その3)

以上の内容は変更されることもある。

[成績評価の方法]

出席率、宿題の提出率、試験の成績、受講態度などによって総合的に評価する。

[教科書]

桃山学院大学計算機センター『ユーザーズガイド』。

[参考文献]

未定。

開講時に指定する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング論B	13 14	前　期 後　期	2単位 2単位	三　木　大　史

[講義概要・学習目標]

コンピュータの基本的な活用能力を、様々なコンピュータの操作体験によって獲得することを学習目標とする。特定のアプリケーションソフトウェアの操作能力を身につけるにとどまらず、コンピュータに対する概念的理解を深め、必要に応じて適切なコンピュータの活用ができる能力獲得を目指す。情報源および発信先として、インターネットの利用を念頭に置き、収集したデータの分析・加工および発信の方法を身につける。

電子メールを授業中の様々な場面で可能な限り使用する。このことを通して、コミュニケーションのツールとしてのコンピュータの特質を体験的に理解するとともに、電子ネットワーク社会のマナーを涵養する。

受講にあたって、予備知識やコンピュータ操作の経験は不要であるが、受け身の受講態度ではなく、積極的・能動的な学習態度が望まれる。

[講義計画]

(1) Windowsの基本操作，WWWブラウザ活用，タイピングの基本
(2) エディター，文字の入力・編集（カットアンドペースト・コピーアンドペースト，検索・置換），ファイルとフォルダの管理，ファイルとアプリケーションソフトウェアとの関連
(3) 電子メールの送受信，メールのヘッダー，テンプレートの活用，ファイル添付と展開
(4) ワープロのレイアウト機能（文字・段落の書式，スタイル，段組，ヘッダー・フッター）
(5) 表の作成と罫線，ビジネス文書作成方法，図形描画
(6) ワードプロセッサのアウトライン機能（文書の構造化），論文スタイル文書の作成方法
(7) 表計算ソフトウェアの基本（文字・数値・式・関数の入力・コピー・書式設定），グラフ作成
(8) 表計算ソフトウェアによるデータ処理，結果の予測
(9) WWWによる資料の検索，データの取り込みと再利用
(10) アプリケーションソフトウェア間のデータの相互利用，オブジェクトの貼り付けとリンク，プレゼンテーションソフトウェアの利用，Webページの作成
(11) 応用課題作成

[成績評価の方法]

試験に代えて、レポートの提出を求める。
最後のレポートに、平常の課題および出席率を加味して評価する。

[教科書]

佐々木宏，森裕一，三木大史，大西慶一『インターネットと情報リテラシー』（同文舘）

[参考文献]

桃山学院大学計算機センター『ユーザーズガイド』
その他、必要に応じて最新の文献を授業中に紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング論C	01	通　期	4 単位	芦　田　昌　也

[講義概要・学習目標]

Fortran と C の2種類のプログラミング言語の講義と演習を通して、
- コンピュータのプログラミングに関する知識
- 問題解決の手順(アルゴリズム)を考案する能力
- Fortran と C のプログラミング言語の文法

を身につける。

講義では、コンピュータプログラムで用いられる制御構造と，それらを用いてアルゴリズムを考案することに重点をおいて学習する。演習では、実際にプログラムを作成しながら、アルゴリズムやプログラミング言語の文法に関する理解を深める。

[講義計画]

- アルゴリズムとプログラミング
  1. 日常生活における問題解決
  2. アルゴリズムの記述と考案
  3. コンピュータプログラムで利用される代表的な制御構造
- 代表的なアルゴリズムと Fortran によるプログラミング
  1. データの並べ換えのアルゴリズム
  2. Fortran によるデータの並べ換えプログラムの実現
- C 言語によるプログラミング
  1. 標準入出力
  2. 変数の利用と四則演算
  3. 条件文による処理の分岐
  4. 一次元配列
  5. 繰り返し処理
  6. 関数の定義と利用

[成績評価の方法]

提出されたレポートにより評価する。レポートの課題は演習中に提示する。

[教科書]

指定しない。

[参考文献]

- 結城　浩「C 言語プログラミングレッスン入門編」ソフトバンク
- 刀根　薫「FORTRAN77 基本+応用」培風館

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング論C	02 03	通　期 通　期	4 単位 4 単位	竹　内　昭　浩

[講義概要・学習目標]

ワークステーションの標準的ＯＳ（オペレーティング・システム）であるＵＮＩＸの入門とＦＯＲＴＲＡＮおよびC言語とを用いて、プログラミングの基礎を学習する。

[講義計画]

（前期）
1．ＵＮＩＸ入門
2．viエディタ入門
3．ＦＯＲＴＲＡＮでの簡単なプログラム
4．if 文
5．do 文
6．配列

（後期）
7．ファイルの操作
8．副プログラム
9．Ｃ言語での簡単なプログラム
10．変数と算術
11．for 文と while 文
12．関数

[成績評価の方法]

試験の結果と、提出してもらうレポートを加味して評価する。

[教科書]

特に指定しない。

[参考文献]

坂本　文（著）「たのしいＵＮＩＸ」（アスキー出版）
浦　昭三（著）「FORTRAN ７７入門」（培風館）
ｶｰﾆﾊﾝ・ﾘｯﾁｰ（著）「プログラミング言語Ｃ　第２版」（共立出版）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング論D		通　期	4単位	三　木　大　史

[講義概要・学習目標]

Windowsプログラミングを実際に体験することによって、プログラミングの基本とユーザーインターフェースを学ぶ。このことを通じて、コンピュータに対する原理的な理解とコンピュータ活用に対する核となるべき知識と感覚を身につける。

Windowsプログラミングは、マウスを動かしたり、クリックしたり、ドラッグしたり、キーボードから入力があったりするたびに処理が行われ（イベント駆動型）、また、ユーザーとコンピュータとのやりとりは、画面上に様々な部品をレイアウトしたものを使って行われるという特徴がある。

プログラミングの統合開発環境としてDelphiを使用する。これは、もともとは教育用に開発されたPascalというプログラミング言語を採用してあってプログラミングの作法を学ぶには最適であり、また、Windowsプログラミングに対する数々の優れた特徴を持つ。

受講にあたって、前提とするプログラミングに関する知識は特に必要ないが、「プログラミング論B」を受講していることが望ましい。

[講義計画]

(1) Delphiの統合開発環境の概要，ラベル，ボタンの利用，イベントハンドラー，if文
(2) 数値と文字の加算，変数の型，関数
(3) チェックボックスとラジオボタン，if文の入れ子
(4) リストボックスとコンボボックス，for文とwhile文
(5) 簡単な集計表の作成，配列，再帰的関数
(6) エラーメッセージとエラーへの対処，時刻・日付の表示
(7) ダイアログボックスとメッセージボックス
(8) オープンダイアログとセーブダイアログ
(9) メニュー，スピードボタン
(10) 基本時なファイルメニューと編集メニューをもつ簡単なエディターの作成
(11) 応用課題作成

[成績評価の方法]

試験に代えて、レポートの提出を求める。
最後のレポートに、平常の課題および出席率を加味して評価する。

[教科書]

藤本壱（著）『Delphiでつくる Windowsプログラム』（サイエンス社）

[参考文献]

必要に応じて最新の文献を授業中に紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
システム設計		通　期	4単位	牧野　丹奈子

[講義概要・学習目標]

企業を情報システムとしてみたとき，経営組織における情報入力，情報伝達，情報蓄積，情報分析，情報出力のありかたを考えデザインすることが，広義のシステム設計である。

情報技術だけに着目したシステム設計は成功しない。コンピュータシステムと人間との関係や，経営戦略とコンピュータシステムとの関係などを多面的に考慮しなければ，企業経営にとって役に立つ情報システムを設計することはできないからである。

この講義は3部構成となっている。

第1部は，「情報とは何か」，「システムとは何か」から勉強をはじめる。続いて，システムモデルや一般システムの基本法則などから複雑系理論までを勉強していく。いわば“システム論入門”である。

第2部は，情報技術が経営に与えている影響を，第1部で勉強したシステム論を用いて分析する。特に，インターネットビジネスを中心に，情報技術と経営組織との関係をみていく。

第3部は，コンピュータシステムの設計について勉強する。ここで学ぶコンピュータシステムのモデリング手法は，仕事や日常生活においても多くの場面で役立つことであろう。（なお，この講義ではコンピュータを使用しない。）

[講義計画]

第1部（システム論の基礎知識）
1．システムとモデル
2．情報と記号
3．システムの基本法則
など

第2部（情報技術と経営組織）
1．経営情報システムの発展過程
2．インターネットビジネス
など

第3部（コンピュータシステムの開発過程・モデリング手法）
1．システムライフサイクル
2．各モデリング手法

[成績評価の方法]

試験とレポートなどの総合評価によっておこなう。

[教科書]

『情報・システム論入門』飯尾要　日本評論社

[参考文献]

その都度，参考文献を紹介する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
データベース論 （旧経営情報学特講－データベース論）		通　期	4単位	佐々木　宏

［講義概要・学習目標］

本講座では、リレーショナル・データベースの基礎から応用までをじっくりと学習する。ソフトウェアはAccessを用いる。最終目標は、リレーショナル・データベースを理解し、画面・帳表の設計と簡単な応用プログラム（マクロ・実習が中心となるが、それを補完するために次の講義を行う。
①リレーショナル・データベースの概念と操作
②データベースの設計
③DOA（データ・オリエンテッド・アプローチ）の方法
④企業の活用事例
受講に際しては、以下を注意のこと。
①3年前までのプログラミング論D（佐々木担当）とほぼ同一内容なので、その受講者は受講できない。
②パソコン実習室を常時利用するため、人数限定となる。プログラミング論と同様に事前申し込みが必要である。申し込みが許可されないと受講できない。
③少なくとも、プログラミング論Bを履修済みであることが望ましい。

［講義計画］
①リレーショナル・データベースの概要
②リレーショナル・データベースの操作とSQL
③リレーショナル・データベースの設計
④アプリケーション作成

毎年、受講者のスキルによって進度が異なる。本年度も受講者の理解度を確かめながら、時間的・スキル的に余裕があれば、以下を行うことにしたい。
⑤CASEツール実習
⑥データ分析手法（統計的データ処理との連携）
⑦VBAを用いたAccessデータベース・プログラミング
⑧Accessデータベース・エンジンの構造と外部プログラムからの操作（ビジュアル・ベーシック・プログラミングの応用）

［成績評価の方法］

前期、後期の2回のレポートに、出席状況等の平常点を加味して評価する。

［教科書］

「ACCESS2000ステップバイステップ」日経BPソフトプレス

［参考文献］

佐々木宏・三木大史他「インターネットと情報リテラシー」同文館

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営工学		**前期集中**	**4単位**	**明　石　吉　三**

［講義概要・学習目標］

経営工学とは経営問題に対する科学的、数学的アプローチをいう。この分野は英国、米国を中心に生まれ、IE（Industrial Engineering）、オペレーションズリサーチ、経営科学として発展してきた。
本分野は方法論、手法、分野別理論と広範囲である。本講座では文科系学生諸君を前提に、経営工学アプローチの意義、手法、モデル化法を講義する。なお、高度な数学的知識は必要としない。具体的講義内容は以下の通りである。

（1）経営工学とは
（2）数理計画法
　a．線形計画法　b．非線形計画法　c．PERT系手法
（3）在庫管理論
（4）予測手法
（5）品質管理
（6）意思決定論

［講義計画］

講義概要に従い講義する。
今日的話題も取り上げたい。

［成績評価の方法］
レポート及び試験による総合評価 。

［教科書］

［参考文献］

別途指示する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営基礎数学（旧経営数学）		通　期	4単位	太　田　雅　晴

［講義概要・学習目標］

経営に関わる種々のオペレーショナルなレベルの業務、例えば、生産および物流計画・管理業務、マーケティング業務、人事および労務計画・管理業務などにおいて、意思決定を行う際、データ、情報をコンピュータを用いて分析しなくてはならない場面が多い。近年の情報ネットワークの発達によって膨大な情報の収集が可能となったことから、益々それら情報の分析が重要となっている。本講は、その分析方法を習得することを目標とする。

具体的には、以下のアプローチをできるだけ平易に概説する。可能ならば、コンピュータを用いて実習する。

1．統計学の基礎
2．オペレーションズリサーチの基礎（線形計画法、組み合わせ数学、ネットワーク論）
3．コンピュータシミュレーション

［講義計画］

前期
・統計理論の基礎を学習する。
・経営関連データへの統計理論の応用をコンピュータ実習を介して行う。

・後期
・線形計画法を中心に学習し、非線形計画法の概要を学習する
・簡単な組合せ数学およびネットワーク理論を学習する。
・統計理論、ＯＲの応用として、コンピュータシミュレーションを学習する。

受講者が多い場合、コンピュータによる演習はデモンストレーションレベルに止める。

［成績評価の方法］

講義中に行う課題と期末試験で総合的に評価する。

［参考文献］

必要に応じて講義中に指示する。

［教科書］

無し

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経　営　分　析		通　期	4単位	坂　上　　学

［講義概要・学習目標］

本講義では、企業の財務情報をもとに、企業の財務状態、経営成績、資金繰りの状態などを分析する手法について解説する。財務諸表を利用した伝統的な比率分析から、比較的最新の企業分析手法まで、幅広く扱う予定である。

［講義計画］

1　貸借対照表とは
2　損益計算書とは
3　良い会社の見分け方
4　財務諸表を正しく読むには
5　決算広告を利用した財務諸表分析
6　最新の企業評価理論の基礎知識

前期は、教科書を使用しながら財務諸表分析の基礎を解説する。これらの知識をもとにして、決算広告を利用した財務諸表分析を実際におこなってもらう。後期では、プリントを配布し、最新の企業評価理論について解説をおこなう予定である。

講義を理解するためには、会計の基礎知識が必要となる。前期・後期を通じて、計算機を多用するので必ず持参すること。

［成績評価の方法］

平常点（ミニテスト＋レポート）50%、期末試験 50% の割合で点数を総合し、評価をおこなう。

［参考文献］

必要に応じて適宜紹介する。

［教科書］

佐々木秀一『日経文庫603　ベーシック・財務諸表入門』（日本経済新聞社, 1989）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
管理会計論		通　期	4単位	清水　信匡

［講義概要］

企業は様々な経営管理の手段を有しているが、その中核に計画とコントロールシステムがある。企業における計画とコントロールのほとんどは、管理会計が担当している。したがって、本講義では、まず経営管理活動における計画とコントロールの意義を説明する。次に、計画とコントロールがどのように管理会計技法によって遂行されているのかを説明する。

［学習目標］

①計画とコントロールの理解
②管理会計の主要な技法の理解

［講義計画］

前期
1　経営管理プロセスにおける管理会計の役割
2　計画とコントロール
3　短期利益計画
4　予算管理

後期
1　標準原価計算による仕事の統制
2　事業部制会計
3　原価企画
4　活動基準原価による原価管理

［成績評価の方法］

試験の成績で基本的に評価する。

［教科書］
溝口一雄編『管理会計の基礎入門』中央経済社1987年

生協にて一括して購入し販売する。

［参考文献］
加登豊『管理会計入門』（日経文庫C４１）日本経済新聞社1999年
伊丹敬之・加護野忠夫著『ゼミナール経営学入門（改訂版）』
日本経済新聞社1993年

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
情　報　会　計　論		通　期	4単位	坂　上　学

［講義概要・学習目標］
本講義では、会計行為を情報行為とみる観点から、会計情報の有用性について考察する。ここでは、経済システムのサブシステムである金融システムと会計システムが相互に関連しあう領域における会計問題を重点的に講義する。

［講義計画］
1　金融環境とわが国の会計制度
2　債権者保護と決算制度
3　投資者保護とディスクロージャー制度
4　外貨換算会計の基礎知識
5　デリバティブ時価会計の必要性
6　ボラティリティーとバリュー・アット・リスクの計算
7　キャッシュフロー現在価値の計算
8　理論先物金利の計算
9　デリバティブの時価評価（金利スワップ価値の設例）

前期は、教科書を使用しながら会計制度をめぐる話題を中心に講義をすすめる。後期は、プリントを配布し、金融商品をめぐる会計の諸問題を扱う。実際に計算問題を解いてもらい、金融システムをめぐる会計情報がどのように生み出されていくのかを肌で感じとってもらえるように工夫するつもりである。
講義を理解するためには、会計の基礎知識が必要となる。後期の講義では、計算機を多用するので必ず持参すること。

［成績評価の方法］
平常点（ミニテスト＋レポート）50%、期末試験 50% の割合で点数を総合し、評価をおこなう。

［教科書］
柴健次著『テキスト金融情報会計』（中央経済社，1999年）。

［参考文献］
ディスクロージャー研究学会編『現代ディスクロージャー論』（中央経済社，1999年）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
簿記Ⅱ		通　期	4 単位	近　藤　健　司

[講義概要・学習目標]

（講義概要）
簿記Ⅱでは、簿記Ⅰの履修を終えた学生に対し、中級程度の工業簿記と商業簿記の講義を行う。工業簿記においては製造業の簿記を学習し、材料費、労務費、経費、製造間接費の配賦、部門別計算、個別原価計算、総合原価計算等を取り扱う。商業簿記においては、勘定科目と仕訳、会社会計、決算、支店会計等を学ぶ。簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要であるため、計算練習を重視する。

（学習目標）
① 商工会議所簿記検定試験（ 6月、11月） 2級に受験できるよう、中級程度の工業簿記・商業簿記の計算能力を身につける。
② 財務諸表論、原価計算の学習のための、基礎知識を学習する。
③ 公認会計士・税理士等々の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力を習得する。

[講義計画]

（前期）工業簿記
① 工業簿記の構造
② 材料費・労務費・経費
③ 製造間接費・部門費
④ 個別原価計算
⑤ 総合原価計算
⑥ 標準原価計算
⑦ 直接原価計算

（後期）商業簿記
⑧ 現金預金
⑨ 有価証券
⑩ 手形取引
⑪ 特殊商品売買取引
⑫ 株式会社会計
⑬ 決算・財務諸表の作成
⑭ 本支店会計
⑮ 帳簿組織・伝票式会計

[成績評価の方法]

前期試験と学年末試験の成績により、総合評価を行う。なお、本年度中に日本商工会議所簿記検定 2級に合格した場合、合格証書のコピーを提出すれば、成績評価を 1ランク上げることにする。

[教科書]

新井清光・渡部裕亘（編著）『検定簿記講義 2級商業簿記』　（中央経済社）
岡本　清・廣本敏朗（編著）『検定簿記講義 2級工業簿記』　（中央経済社）

[参考文献]

中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋（共著）「現代簿記論」（中央経済社）
新井清光・渡部裕亘（編著）『検定簿記ワークブック 2級商業簿記』(中央経済社)
岡本　清・廣本敏朗（編著）『検定簿記ワークブック 2級工業簿記』(中央経済社)

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
原価計算論		通　期	4単位	小　林　哲　夫

［講義概要・学習目標］
多品種小ロット生産、ＪＩＴないしリーンな生産方式、ＦＡ化、グローバル化などに対応する現代経営を取り巻く原価計算の課題と動向を背景としながら、原価計算及びコスト・マネジメントについて講義を行います。
製品原価計算の基礎的な概念や手続についても説明を行うが、原価企画、ライフサイクル・コスティング、品質コストのマネジメントなど、トピカルな問題についてもできるだけ時間を割いて講義を進めていきたいと思っています。
現代経営における原価計算及びコスト・マネジメントについての知識を身につけることが学習の目標です。

［講義計画］

（前期）主として、製品原価計算に関する基礎知識及び新しい原価計算のあり方に焦点を当てて講義を行います。

（後期） 原価企画、ライフサイクル・コスティング、品質コストのマネジメントなどを中心として現代経営が取り組んでいるコスト・マネジメントについて講義を行い、合わせて戦略的コスト・マネジメントの考え方に洞察を加えます。

［成績評価の方法］

期末テスト

［教科書］
小林哲夫『原価計算：理論と計算例』（中央経済社）
小林哲夫『現代原価計算論：戦略的コスト・マネジメントへのアプローチ』（中央経済社）

［参考文献］

日本会計研究学会『原価企画研究の課題』（森山書店）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
税務会計		通　期	4 単位	中　田　信　正

［講義概要・学習目標］

（講義概要）
税務会計は、会計のうち、税法に関連する分野を扱うものである。主な内容は、法人税を中心にして、法人の課税所得金額を計算する仕組みや方法を学ぶことにある。講義においては、まず、納税主体である法人の意味や種類について述べ、所得計算の基本的な考え方を財務会計と関連させて説明する。ついで、益金および損金の各項目に関する税務上の処理にふれ、また、税額の計算方法について学ぶ。さらに、申告、更生・決定、不服申立てについても論じたい。理解を深めるため、できるかぎり計算練習を行いたい。

（学習目標）
①法人税法における課税所得金額と税額の算定方法の概要を、体系的に理解する。
②税法上の所得金額と財務会計上の利益との関係および両者の相違を把握する。

［講義計画］

① 法人税の納税主体
② 各事業年度の所得金額の計算体系
③ 売上に関する税務
④ 棚卸資産評価と売上原価
⑤ 固定資産と減価償却
⑥ 特別償却
⑦ 繰延資産の償却
⑧ 役員報酬・賞与等
⑨ 寄付金・交際費
⑩ 租税公課
⑪ 貸倒損失
⑫ 受取配当金
⑬ 引当金
⑭ 圧縮記帳
⑮ 欠損金の繰越・繰戻
⑯ 税額の計算
⑰ 申告・納付・更生・決定等
⑱ 学年末試験のための答案練習

［成績評価の方法］

前期試験と学年末試験の成績によって評価する。試験は計算問題と論述問題を出題する。

［教科書］

中田信正（著）『税務会計要論（十訂版）』（同文舘）

［参考文献］

井上久彌ほか（著）『法人税の計算と理論』（税務研究会出版局）
国税庁法人税課長（監修）『私たちの法人税』（大蔵財務協会）
大蔵省主税局税制第一課監修『法人税法規集』（中央経済社）
大蔵省主税局税制第一課監修『法人税取扱通達集』（中央経済社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
監査論		通　期	4 単位	朴（パク）　大栄（テヨン）

［講義概要・学習目標］

バブル経済の崩壊とともに、企業が公表する財務諸表の粉飾問題、銀行の不正融資など企業経営者による不正行為が社会的な関心事となっている。同時に、連続する大手企業の倒産、それにともなう企業開示情報への不信が経済社会に混乱を引き起こしている。
このような状況のもと、監査に対する社会的関心も高まってきている。監査論は、企業の独断専行を抑え、一般社会との協調を計らせるための会計学、経営学等の応用理論に属する。今年度の講義は、このような社会背景のもと、監査の基礎知識のみならず、現行の監査制度の問題点などにも触れていくことにする。
本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に介在する証券取引法監査ないし会計監査を中心に、監査に関する基礎知識の理解を目的とする。

［講義計画］

講義の順序を示す。
第１章 監査とは
第２章 通説監査論の考え方
第３章 情報監査論の考え方
第４章 その他の監査論
第５章 監査の必要性
第６章 監査の限界と補強方法
第７章 監査の歴史的発展
第８章 監査目的と不正
第９章 監査基準の意義
第10章 監査人の資格と条件
第11章 監査人の正当注意
第12章 監査証拠
第13章 監査計画
第14章 内部統制と試査
第15章 監査報告書と適正性
第16章 監査意見
第17章 特記事項

［成績評価の方法］

定期試験の成績と出席状況を勘案して評価する。

［教科書］

加藤恭彦・友杉芳正・津田秀雄編著
『監査論講義』　中央経済社

［参考文献］

鳥羽至英著　『監査基準の基礎 第２版』　白桃書房
高田正淳著　『最新監査論』　中央経済社
その他、講義中に適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国際会計論		通　期	4単位	柴　理梨亜

［講義概要・学習目標］

国際化、グローバル化がますます進む現在の環境では当然、会計もその影響を受けている。日本でも国際会計基準が重要視されるようになり、日本の会計基準との調和化問題も大きな課題となっている。

本講義では国際会計基準、アメリカ式財務諸表や会計原則、連結財務諸表や監査等について学び、多くの英語の会計専門用語を身につけ、英文財務諸表の内容を理解できるようになるのが目的である。

［講義計画］

1．財務会計の国際的視点
2．財務会計実務の多様性
3．財務会計における多様性の調和化
4．国際化が進んだ環境のもとでの財務報告
5．世界の開示実務
6．多国籍企業の連結財務諸表
7．多国籍企業の外貨換算
8．国際財務諸表分析
9．多国籍企業における業績評価
10．国際会計における新たな諸問題

［成績評価の方法］

前期と後期のテストの結果と平常点を総合的に評価する。

［教科書］

ミューラー、ガーノン、ミーク（著）野村健太郎、平松一夫監訳「国際会計入門」第4版（中央経済社）

［参考文献］

1．西川郁生監修　JUSCPA国際会計基準専門部会著「よくわかる国際会計基準」（第2版）（中央経済社））

2．長谷川重男、萩　茂生、川本修司（著）「日本の財務諸表が変わる－会計の国際化の進展」中央経済社

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
税法 （旧会計学特講－税法）		通　期	4単位	中　田　信　正

［講義概要・学習目標］

（講義概要）

税法のうち、身近な問題を対象に、個人の所得課税および資産課税を講義内容とする。まず、日本の税制を全般的に述べた後、所得税を取り上げる。利子所得、配当所得、給与所得等の課税所得を種類別に説明し、個人事業者に対する事業所得の計算方法および資産譲渡に課せられる譲渡所得についても論じたい。ついで、相続財産に対して課せられる相続税を取り上げ、その計算構造および財産評価基準を検討し、関連して贈与税にもふれることにしたい。理解を深めるため、計算練習を重視する。

（学習目標）

所得税および相続税の基本的仕組みを、体系的に理解する。

［講義計画］

Ⅰ　日本の税制
Ⅱ　所得税法
　1　納税義務者
　2　所得の種類
　3　課税所得の種類
　4　利子所得
　5　配当所得
　6　不動産所得
　7　給与所得
　8　退職所得
　9　譲渡所得
　10　山林所得
　11　一時所得
　12　雑　所得
　13　事業所得
　14　所得の総合課税と分離課税
　15　所得控除
　16　税額の計算
　17　源泉徴収・年末調整
Ⅲ　相続税法
　1　課税財産・非課税財産
　2　相続税の計算構造
　3　財産評価基準
　4　贈与税の計算構造

［成績評価の方法］

前期試験と学年末試験の成績によって評価する。試験は計算問題と論述問題を出題する。

［教科書］

国税庁所得税課長監修『平成12年度　私たちの所得税』（大蔵財務協会）

後半に使用する相続税については別途指示する。

［参考文献］

国税庁広報課長監修　『やさしい譲渡所得』（大蔵財務協会）
国税庁資産税課長監修『やさしい相続税』（大蔵財務協会）
国税庁広報課長監修　『やさしい贈与税』（大蔵財務協会）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
会計学特講 ――会計情報に基づく企業評価――		通　期	4単位	桜　井　久　勝

［講義概要・学習目標］
企業が公表する財務諸表などの会計情報は、企業評価を行うための情報の宝庫です。この講義では、そのような会計情報を読みこなして、個々の企業の収益力や倒産の危険性の有無、将来の成長見通しなどの観点から、企業評価を行う方法を解説します。このため最初に、教科書に従って財務諸表の分析方法をマスターします。まったくの初歩から説明しますので、会計の知識がなくても心配いりません。１年間の講義が終わる頃には、企業を評価する実力が身についていることでしょう。

［講義計画］
前期
①財務諸表の役割と仕組み
②財務諸表の入手方法
③貸借対照表の見方
④損益計算書の見方
⑤財務諸表を分析する視点と方法
⑥収益性の分析
後期
⑦生産性の分析
⑧安全性の分析
⑨不確実性とリスクの分析
⑩成長性の分析
⑪企業集団の分析
⑫証券投資への応用

［成績評価の方法］
不定期に行う小テストと期末試験によって総合評価します。

［教科書］
桜井久勝（著）「財務諸表分析」中央経済社、1996年。

［参考文献］
この講義では財務諸表の「読み方」を中心に解説しますので、「作り方」は最小限度しか説明しません。作り方に興味がある人は、次の文献を参考にして下さい。
桜井久勝（著）「財務会計講義（第３版）」中央経済社、2000年。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
商業英語		通　期	4 単位	桜　井　勝　友

［講義概要・学習目標］

即戦力を期待する実社会のニーズに対応するため、実務に役立つ商業英語（Business English）の基礎知識を習得する。
貿易業務の流れに添って基礎的専門用語や英語表現をマスターし、状況に応じて自分の意向や意志を英文で伝えられるようにする。

なお貿易の「実務知識」と「商業英語」は謂わば車の両輪の関係である。従って講義「貿易実務」の履修又は積極的自習をお願いする。

［講義計画］

講義計画
1。貿易業務の概論（輸出を中心に全体像）
2。取り引きの申し込み（引き合い・見積もり）
3。オッファー、カウンター・オッファー（条件折衝）
4。契約締結関係
5。金の移動　（信用状及び送金による貨物代金の決済を中心）
6。物の移動　（船積み及び保険関連）
7。クレームとその解決関連
8。個人輸入関連

［成績評価の方法］

前・後期期末試験成績、出欠状況、受講態度（気迫と積極性）。
第58回「商業英語検定試験」Ｃクラス合格者はﾌﾟﾗｽ評価する。
（11月23日、日本商工会議所主催）

［教科書］

〔三訂版〕「商業英検Ｃ級からＢ級への合格の手引き」
芝池美明・上田久雄著　（晃洋書房）

［参考文献］

［新］実用英語ハンドブック　加藤 正 主幹　（大修館書店）
「マンガ貿易入門」宮下 忠雄著　（サンマーク出版）